資料　1

アンケート調査結果の報告

構　成

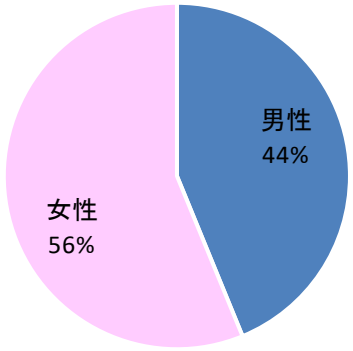
1.地域公共交通アンケート調査（H28.3）の補足
2.計画策定のために行った調査の概要
3.計画策定のために行った調査の結果
　1）高齢者アンケート調査
　2）路線バス沿線住民アンケート調査
　3）高校生アンケート調査

1.地域公共交通アンケート調査（H28.3）の補足

（1）調査の結果

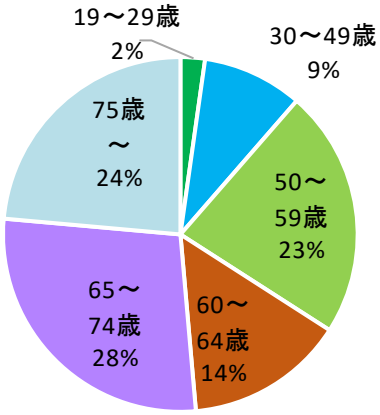
- 回答者の性別は、女性がやや多くなっている。
- 回答者の年齢構成は50歳未満が約1割、65歳以上が約半数となっている。
- 回答者の居住地は市場町と阿波町がやや多くなっている。
- 町別の外出先は、目的計では各自町内が最も多く、阿波町、市場町では約半数となっている。土成町、吉野町でも自町内が最も多いが、約3割程度となっており、土成町は次に多い吉野町、吉野町は次に多い吉野川市を足すと約半数となっている。
- 全体で約6割が市内での移動となっている。

◆性別構成



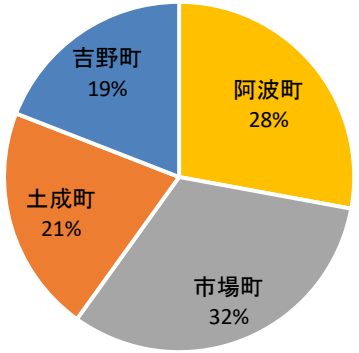
n=920
※不明は除く

◆年齢構成



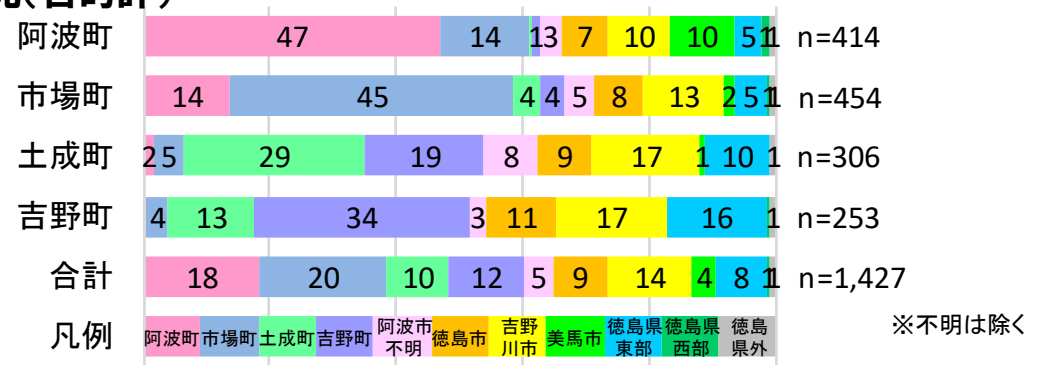
n=895
※不明は除く

◆居住地構成（町別）



n=896
※不明は除く

◆外出先（目的計）



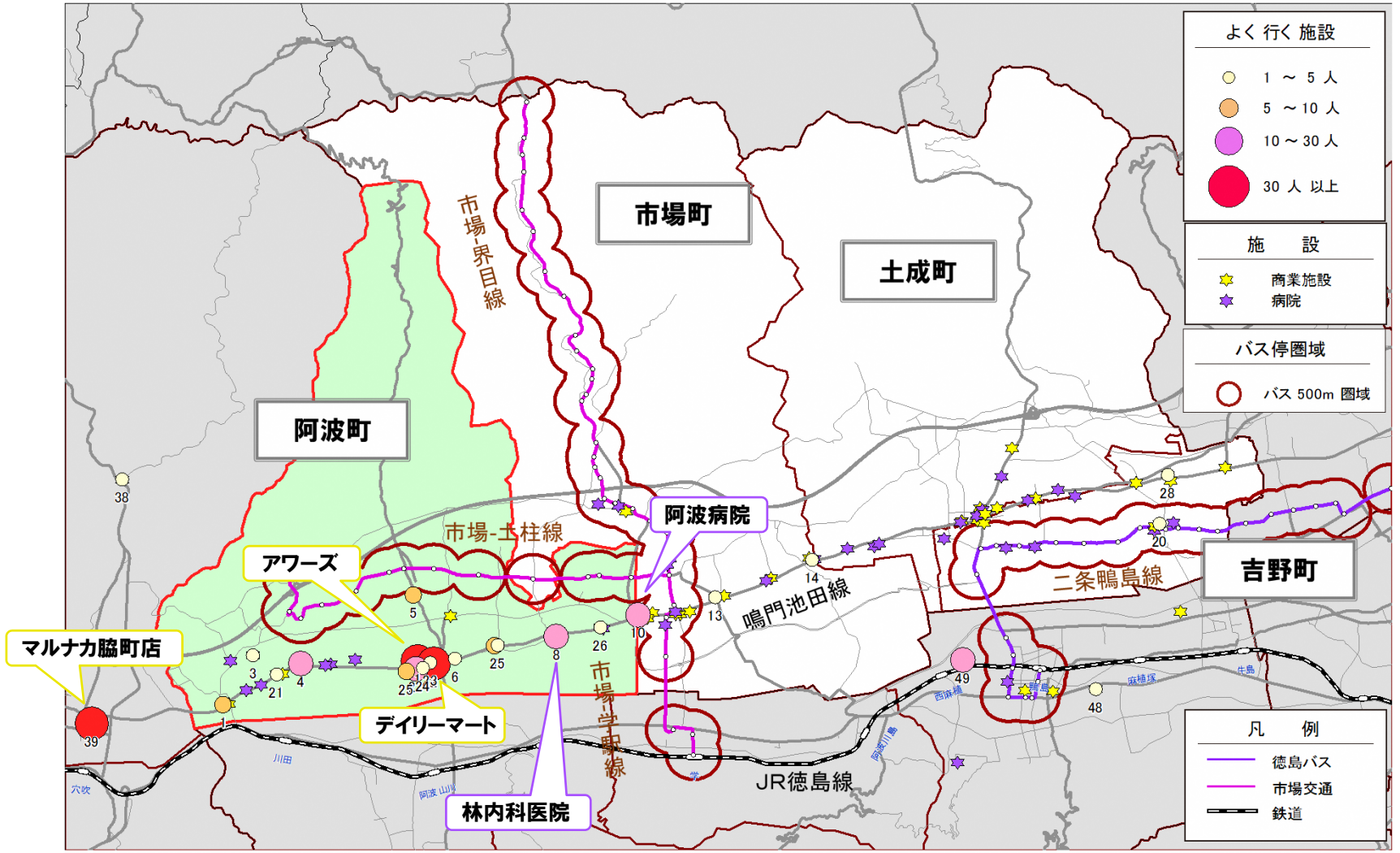
※不明は除く

1.地域公共交通アンケート調査(H28.3)の補足

(1)調査の結果

- 阿波町の方の目的地は、買物・娯楽は阿波町内のアワーズ(43件)、デイリーマート(32件)や美馬市のマルナカ脇町店(30件)が多く、通院は市場町の阿波病院(23件)や阿波町内の林内科医院(16件)が多くなっている。

◆居住エリア別の通院、買物・娯楽の目的地(阿波町)



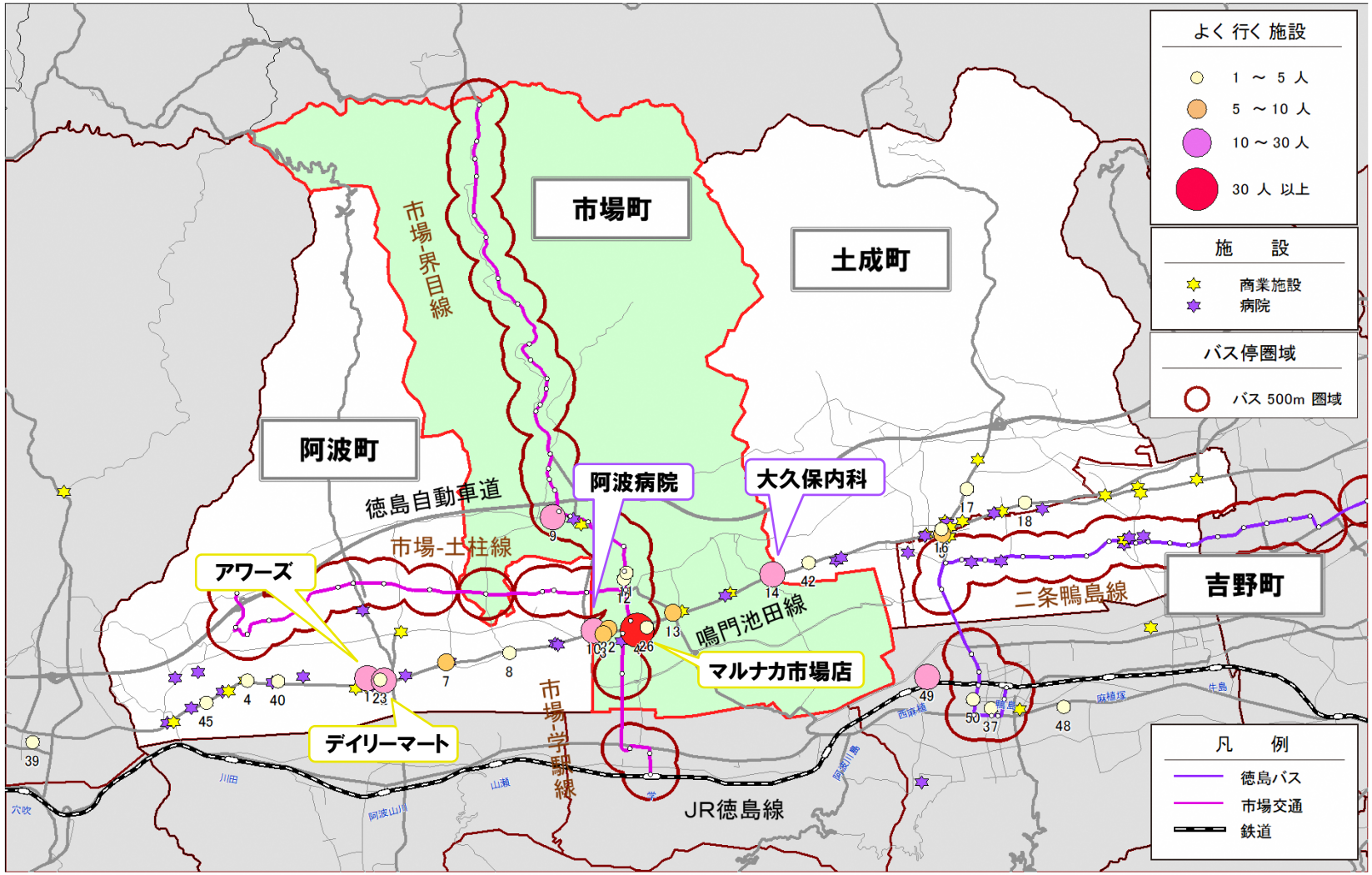
※不明は除く

1.地域公共交通アンケート調査（H28.3）の補足

（1）調査の結果

- 市場町の方の目的地は、買物・娯楽は市場町内のマルナカ市場店（68件）、阿波町のアワーズ（11件）、デイリーマート（11件）が多く、通院は市場町内の大久保内科（29件）、阿波病院（19件）が多くなっている。

◆居住エリア別の通院、買物・娯楽の目的地（市場町）



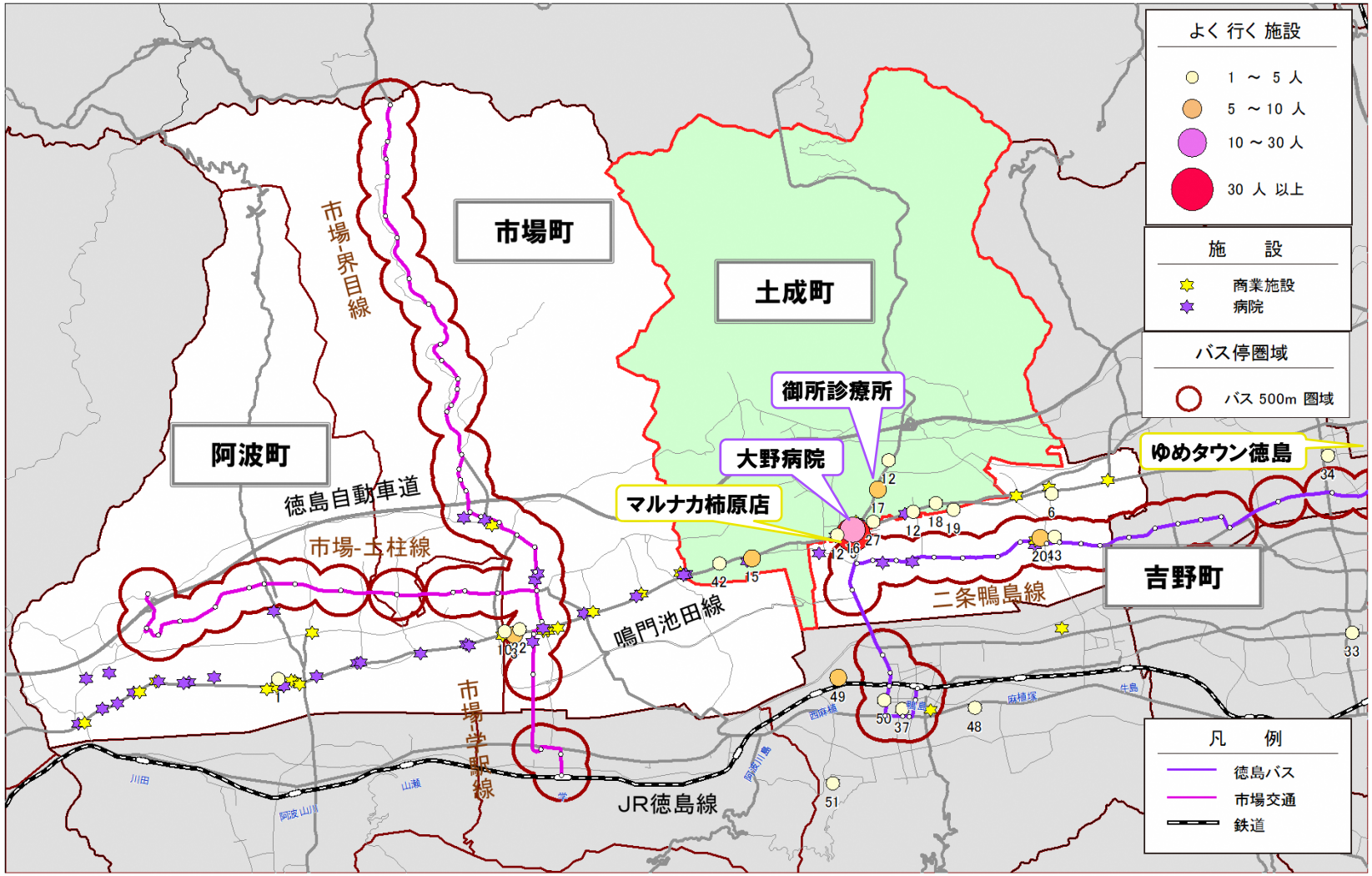
※不明は除く

1.地域公共交通アンケート調査(H28.3)の補足

(1)調査の結果

- 土成町の方の目的地は、買物・娯楽は吉野町のマルナカ柿原店(62件)や藍住町のゆめタウン徳島(7件)が多く、通院では土成町の大野病院(14件)や御所診療所(7件)が多くなっている。

◆居住エリア別の通院、買物・娯楽の目的地(土成町)



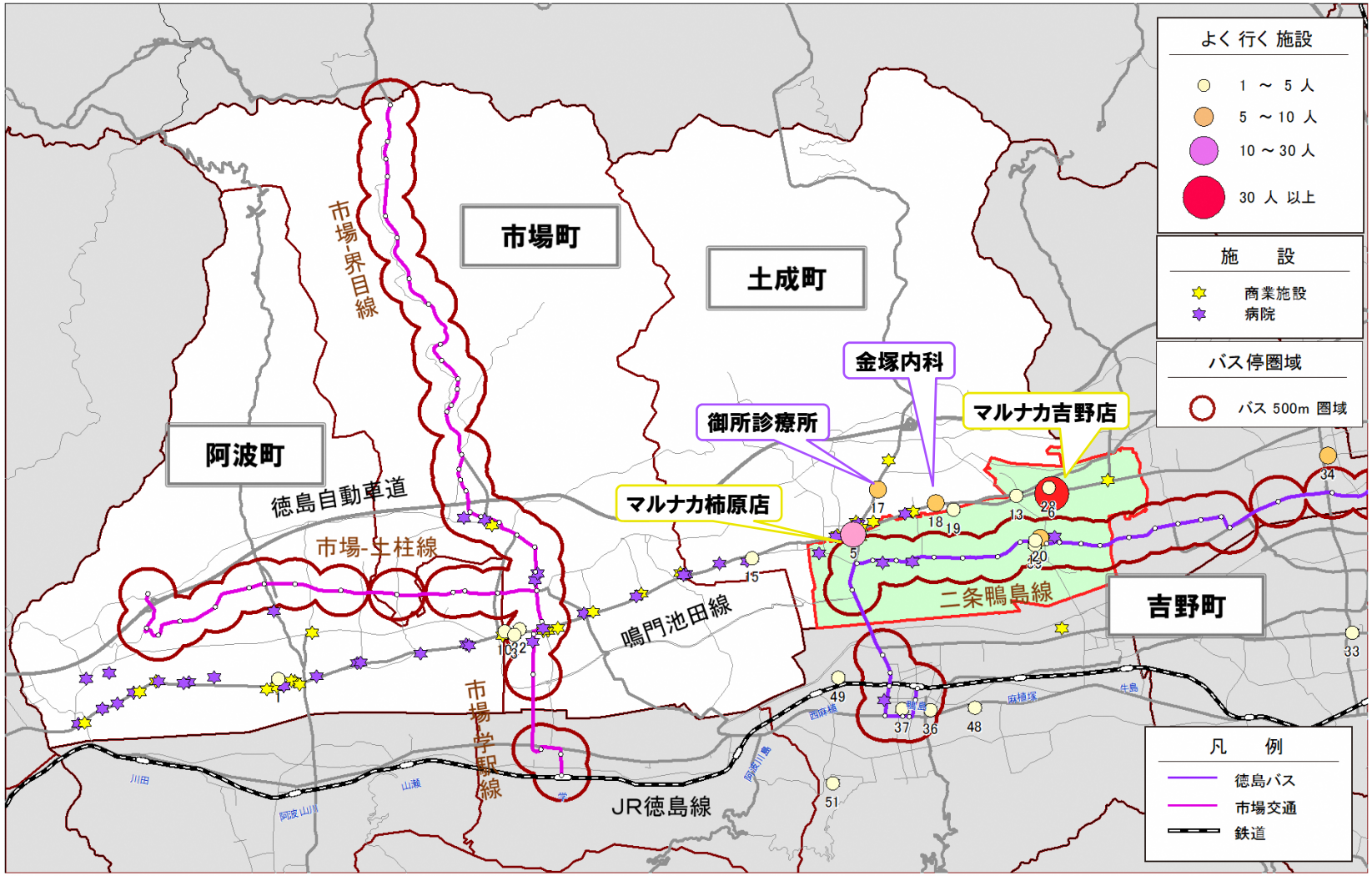
※不明は除く

1.地域公共交通アンケート調査(H28.3)の補足

(1)調査の結果

- 吉野町の方の目的地は、買物・娯楽は吉野町内のマルナカ吉野店(47件)やマルナカ柿原店(14件)、通院では土成町の金塚内科 (8件)や御所診療所(7件)が多くなっている。

◆居住エリア別の通院、買物・娯楽の目的地(吉野町)



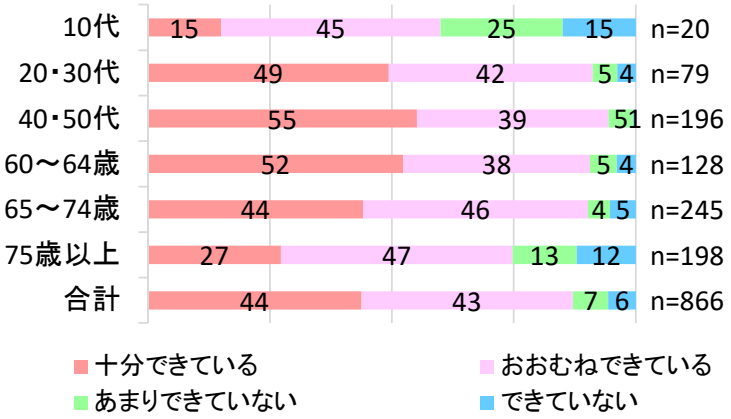
※不明は除く

1.地域公共交通アンケート調査（H28.3）の補足

（1）調査の結果

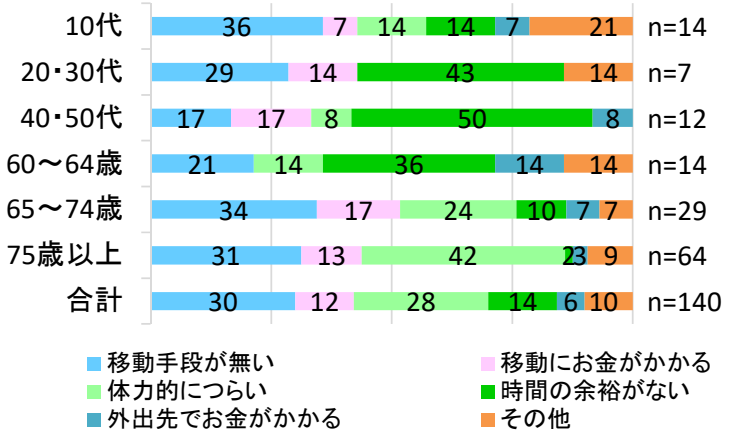
- 希望通りの外出は「十分できている」と答えた人は全体で4割を超えており、「おおむねできている」を合わせれば8割を超えている。
- 10代と75歳以上では他の年代に比べて「あまりできていない」「できていない」の割合が高くなっている。
- 希望通りの外出ができない理由は、10代、65～74歳、75歳以上では「移動手段が無い」の割合が高くなっている。また、75歳以上では、「体力的につらい」の割合が高くなっている。

◆ 希望どおりの外出ができているか



※不明は除く

◆ 希望どおりの外出ができない理由



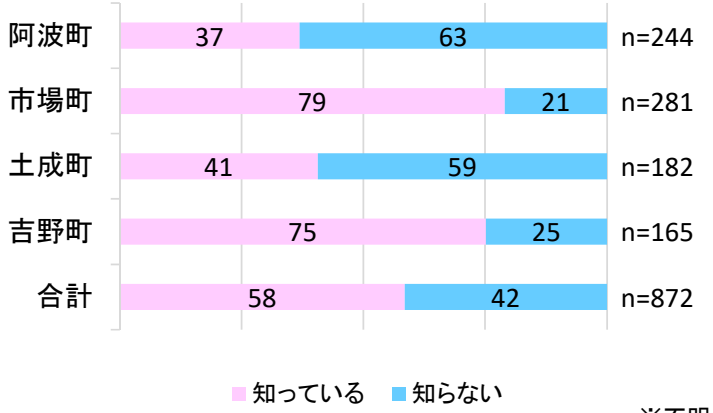
※不明は除く

1.地域公共交通アンケート調査（H28.3）の補足

（1）調査の結果

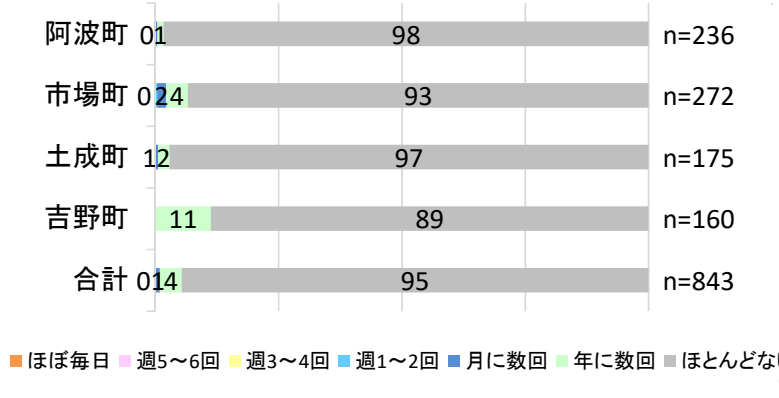
- 路線バスの認知状況について、町別では路線バスが運行中である吉野町や市場町では75～79%を占める一方、便数の少ない阿波町や、公共交通の無い土成町では37～41%と低くなっている。
- 路線バスの利用状況について町別にみると、現在、徳島バス(株)の路線バスが運行している吉野町で、「年に数回」が11%となっているほかは、いずれの町も「ほとんどない」が約9割を占めている。
- 地区別の利用状況では日開谷・大影地区で「週1～2回」が2%、「月に数回」が6%、一条地区と柿原地区で「年に数回」約1割となっているほかは、いずれの地区も「ほとんどない」が約9割を占めている。

◆ 路線バスの認知（町別）



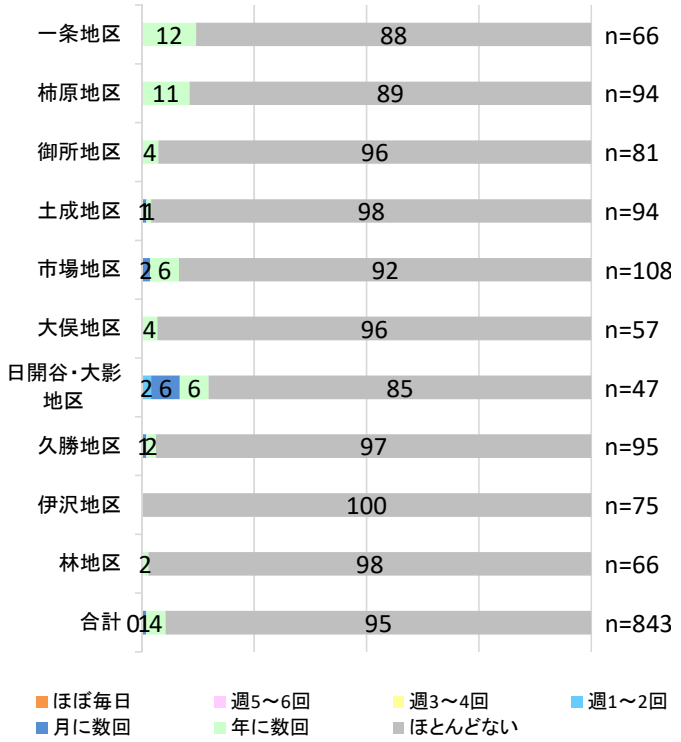
※不明は除く

◆ 路線バスの利用状況（町別）



※不明は除く

（地区別利用状況）



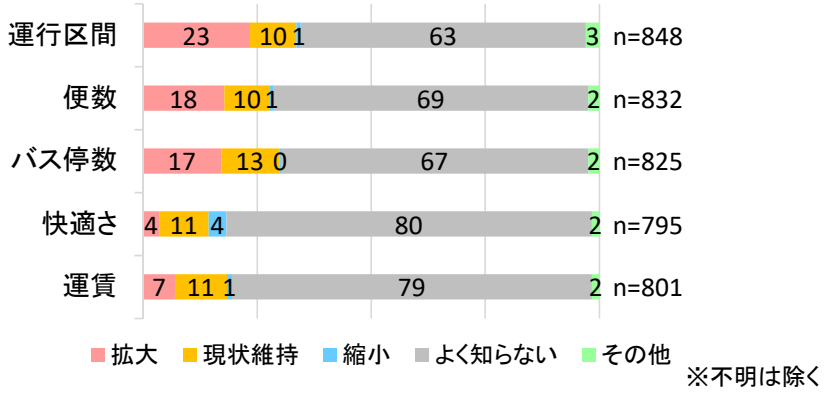
※不明は除く

1.地域公共交通アンケート調査（H28.3）の補足

（1）調査の結果

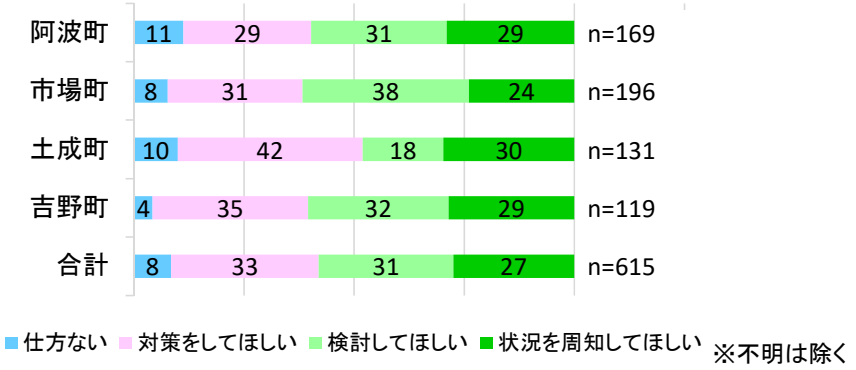
- 路線バスの評価として、運行区間、便数、バス停数で「拡大」のニーズが高くなっているが、「よく知らない」が6割以上存在し、路線バスに無関心な方が多くなっている。
- 公共交通空白地域に対する意識について、町別に見ると、「対策をしてほしい」「検討してほしい」が半数を超えており、土成町では「対策をしてほしい」が4割を超えている。
- 今後の路線バスに対する意識は、「拡充」が約2割、「置換（バスに代わるより効果的な公共交通手段の設置を検討すべきである。）」が約4割と、合わせて約6割が対策実施を望んでいる。市場町、吉野町では他地域に比べて「維持」が多くなっている。
- 公共交通を継続して運行していくために必要なことは、「地域住民が支えていく意識を育てる」が最も多く、次いで「地域住民が積極的に利用」となっており、いずれも地域住民への働きかけや取組みが重要と考えられている。

◆ 路線バスの評価



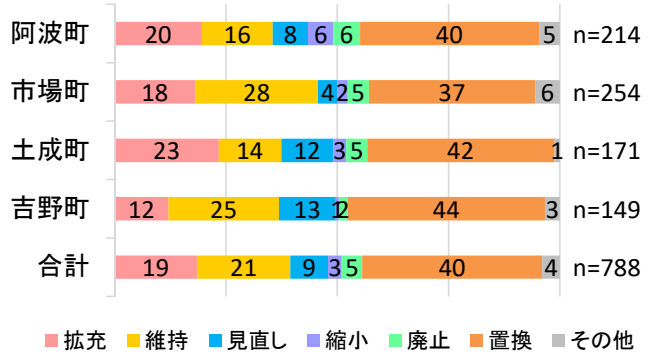
※不明は除く

◆ 公共交通空白地域に対する意識



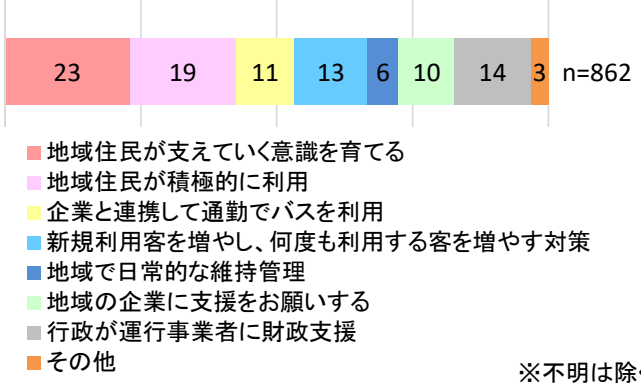
※不明は除く

◆ 今後の路線バスに対する意識



※不明は除く

◆ 公共交通を維持して運行していくために必要なこと



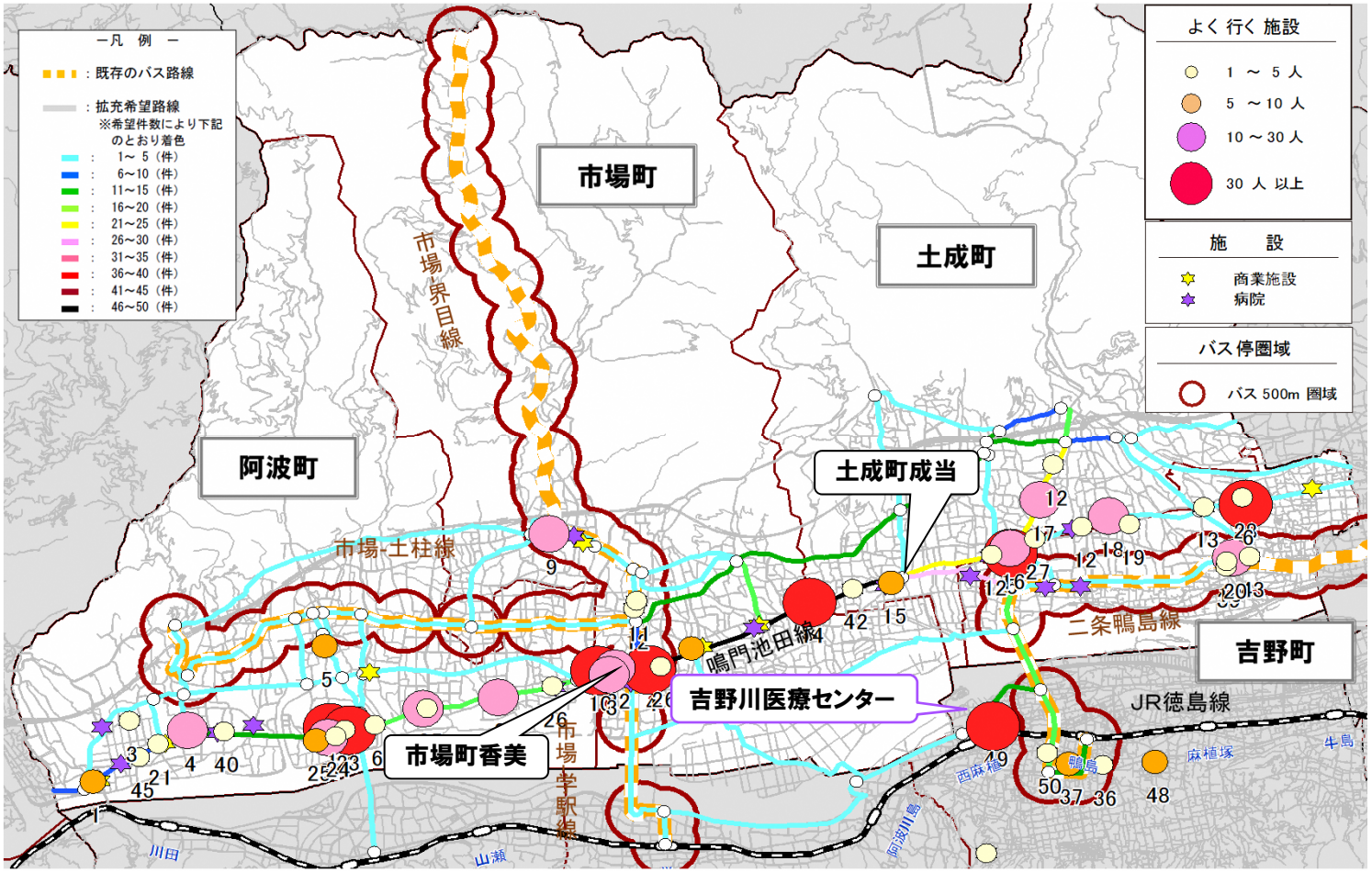
※不明は除く

1.地域公共交通アンケート調査（H28.3）の補足

（1）調査の結果

- バス路線拡充の運行希望があった区間は、二条鴨島線（徳島バス㈱と市場-学駅線㈲市場交通）の間で現在運行されていない「土成町成当」から「市場町香美」までの区間が最も多くなっている。
- 通院、買物・娯楽の目的地は、鳴門池田線沿いにある施設が多く、バス路線拡充の運行希望も鳴門池田線が多くなっている。また、市外では吉野川医療センターへ訪れる方が多く、運行希望も多くなっている。

◆公共交通の維持拡充や新たな公共交通機関等の希望



※不明は除く

1.地域公共交通アンケート調査（H28.3）の補足

（１）調査の結果

- 移動手段として自動車を利用されている方が多いものの、将来運転できなくなった際に移動に不安を感じている回答が見受けられる。

◆ 自由意見

・これから老人世帯がどんどん増え、自動車を運転したくてもできなくなる人が増加すると思います。義父が運転が不安な状態になっても免許証を返却しようとせず事故を起こさないかずいぶん心配しました。あと１５年もすれば私もそうなると思います。免許証を返納しても安心して自分の行きたい場所に行ける公共交通機関ができるよう願っています。

・現在の年令であれば自家用車の運転は出来るが、いつまで出来るかわかりません。家族がいても、ずっと付き添ってくれる訳ではなく身体の自由も少しずつ衰え出し、誰かの支えが必要になります。病院、買物、その他（郵便局、銀行）に行く事も知り合いの人に頼んだり（常時頼めない）タクシーを利用することになるでしょう。そんな時、必要に応じて経済的にも安く利用出来るサービスがあれば良いなと思います。利用者も、介護支援の様な形で登録出来る様にしてほしいと思います。

・自分で自家用車の運転が出来なくなり免許証を返納した場合、自分が希望した場所へ行けるタクシーのような車（割安）を市が運行するか、又は他の人に行って頂けるような仕組をつくってもらいたいと思います。このような考えの人は他にもたくさんいらっしゃいます。どうか前向に考えて実現出来る事を願っております。病院へ行く時だけでも大変助かります。特殊の病気で今通っている病院が遠いので交通の便も悪いし費用が嵩みます。

・現在は自分で運転出来ますが将来が不安です。

・自分達も２０年後あたりには、自動車も運転できなくなると思うので、１番に生きてゆく上で、病院と、食料品の買物に困ると思います。病院はタクシーと考えます。食品は、移動スーパー車に来てもらうつもりと考えています。当面は、子供達がしてくれると思っております。これから先、財政も厳しく、できるだけ、経費節約で、老人の方達もできる限り、若者に負担を少なくするように、自分達で、できるように考えていったら思います。公共バスも毎日じゃなくて、５日とかの単位で出たらどうかと思います。

1.地域公共交通アンケート調査（H28.3）の補足

◆ 自由意見（続き）

・今はまだ４０歳代で、車の運転も、車の維持もできていますが、将来的に現状のように、維持していけるという保証はないので、買物や病院に行きたい時に行けない時がくると思うだけでとても不安です。特に最近、阿波市で住むのは不便だと感じる事がよくあり、本当は、高齢になった時には便利な土地で住みたいというのが理想です。病院も買物するお店も娯楽施設もないに等しく、ただでさえ人口流出が止まらなくなっていく中、阿波市は発展性がひとつもなく、廃れてゆくのをただ眺めて見過ごしてゆくだけなのだろうかと不思議に思います。本当に交通手段は考えないと、生活弱者は救えません。

・自分の将来の事を思うと自動車以外の交通手段が少ないというのは切実です。特に私には子供や兄弟はいませんので、自分が車を運転できなくなった時どうすればいいのか。財政等問題は山積でしょうが、公共交通機関は残してほしいと思います。将来徳島市内のぐるりんバスのような小さなバスが阿波市内を走ればうれしいです。

・少子・高齢化の時代、日々の生活で現在は車の運転が出来ますが年令が上がると運転も難しくなります。食料品を買うにしても、病気になり医者に行くにもタクシーでは高く年金も目減り状態で老人が安心して暮らせる交通網があれば少しは安心出来ます。市内周回小型バスなども一案かと思います。

・自分の年令を考えてもあと１０数年しか運転ができないと思います。バスは、足腰が弱いと無理なのでタクシーを充実させてほしいと思います。

・現在は元気で自分で自動車にも乗れるが将来のことを考えるともっと高齢化になっているであろうから地域公共サービスの拡充をお願いしたい。

・病気してから何年先分からないけど交通手段は身近な問題、遊びよりも買物や病院に行く事ばかり、独居老人になることは確かな事だから少ない年金生活なのに交通費に悩まされる。５年先運転出来ないと思う（目視力、体力の問題）。御所地区には路線バス無しなのが残念。

・自分で車を運転できなくなる時は必ず来る。公共交通機関の維持、拡充は大切な問題である。生活できる様整備を継続してもらいたい。

・家族で交通手段がないものがいるので、どこへ行くにも送り迎えがいる。他の家族の負担になる。家から病院もスーパーも高齢の家族は歩いていけないのでとても不便に思っています。効率的で便利な公共交通機関を今すぐにでも設置してほしい。今のままでは自分自身も自家用車が運転できなくなった時、非常に不便に感じると思う。

1.地域公共交通アンケート調査（H28.3）の補足

● 地域公共交通アンケート調査の結果より、以下のことがわかった。

〔アンケートからわかったこと①〕

・「運転免許証がない」と回答されているのは10代と75歳以上で割合が高くなっており、この年代は「自由に使える交通手段がない」の割合も高くなっている。

・通勤、通院、買物・娯楽を目的とした外出手段として、自動車の利用が多く、送迎での自動車利用を含めると大半となっており、送迎での自動車利用は、通院、買物・娯楽で10代と75歳以上が多くなっている。

・10代と75歳以上の年代は運転免許証を持たない人の割合が高く、その場合は送迎等での移動が多くなり、自由に使える交通手段がないと認識されていると考えられる。

・自動車の利用が多くなっているが、将来運転ができなくなった際の移動手段には不安を抱える人が存在している。

・希望どおりの移動が「十分できている」と答えた人は全体で４割を超えており、「おおむねできている」を合わせれば８割を超える。希望どおりの外出が出来ない理由は、10代、65歳以上で「移動手段が無い」が多く、特に75歳以上では「体力的につらい」が多くなっており、体力面で移動の負荷が大きくなっていると考えられる。

運転免許証を持たず、自由に使える交通手段がない
10代と75歳以上の移動の確保が必要。
特に75歳以上は体力的に移動の負荷が大きいことを考慮する。

1.地域公共交通アンケート調査（H28.3）の補足

● 地域公共交通アンケート調査の結果より、以下のことがわかった。

〔アンケートからわかったこと②〕

・路線バスの認知は、吉野・市場町では7割を超えて認知されているが、阿波・土成町では4割前後であり、利用については全町において約9割が「ほとんどない」と答えている。

・現在の公共交通について、バス路線が少ない、公共交通の選択肢が少ない、バスの便数が少ないとの意見が多く、利便性の低さがある。

・公共交通を「維持すべき」と考えている人は、各年代で約5～6割となっており、約4割が「拡充」を希望しており、特に10代が多い。

・路線バス運行に対する意識は、「拡充」が約2割、「置換」が約4割となっている。

公共交通の選択肢が少なく、路線バスは路線数・便数が少ないため、新たな交通手段も含めたニーズに合った交通手段が必要。

〔アンケートからわかったこと③〕

・公共交通空白地への対策は、各年代で半数の人が対策・検討をしてほしいと考えている。

公共交通空白地への対応が必要。

1.地域公共交通アンケート調査（H28.3）の補足

● 地域公共交通アンケート調査の結果より、以下のことがわかった。

〔アンケートからわかったこと④〕

・自町内での移動が最も多くなっており、市内での移動は約６割となっている。市外への日常的な移動需要もある。

・市内では中核となる総合病院（阿波病院）、医療機関（大久保内科、林内科医院、大野病院、御所診療所、金塚内科）やスーパーマーケット（アワーズ、マルナカ市場店・柿原店・吉野店）の利用が多くなっている。これらのうち、マルナカ市場店等一部の店舗を除いて、路線バスの運行経路外の施設が多くなっている。また、市外では美馬市のマルナカ脇町店が多く、藍住町のゆめタウン徳島への移動需要もある。

・市民がよく利用する主要な医療機関や商業施設は、鳴門池田線沿いに点在しており、バス路線拡充の運行希望も鳴門池田線沿いが多くなっている。

・バス路線拡充についての市民の運行希望は、二条鴨島線（徳島バス㈱）と市場学駅線（㈲市場交通）との間で、公共交通空白地となっている「土成町成当」から「市場町香美」までの区間が多い。

市民がよく利用する市内外の施設へのアクセス確保。

〔アンケートからわかったこと⑤〕

・公共交通の継続には「地域住民が支えていく意識を育てる」、次いで「地域住民が積極的に利用」となっており、地域住民への働きかけや取り組みが重要と考えられている。

公共交通の継続に向けた地域住民との協働が必要。

2.計画策定のために行った調査の概要

（１）調査の概要

● 計画策定に当たって、現状の利用状況や利用意向、将来のニーズ等を把握するため、今年度は高齢者アンケート調査、路線バス沿線住民アンケート調査、高校生アンケート調査の3種類のアンケート調査を実施した。

	目　的	調査対象	調査方法	調査日時	配布・回収数
高齢者アンケート調査	現在の移動状況や公共交通利用状況のほか、移動ニーズや、今後の公共交通整備に対する意見等を把握	満65歳以上の男女800名	郵送配布 郵送回収	配布 H29.8.21（月） 回収 H29.9.5（火）	配布数800票 回収数318票 回収率40%
路線バス沿線住民アンケート調査		路線バス沿線地域（小字）に居住する満19歳以上の男女800名			配布数800票 回収数265票 回収率33%
高校生アンケート調査		・阿波市内の高校に通学する、2年生の全学生 ・阿波市周辺に位置する高校に通学する、阿波市民の2年生の学生	学校を通じた直接配布、直接回収	配布 H29.8.30（木） 回収 H29.9.22（金）	配布数380票 回収数290票 回収率76%

2.計画策定のために行った調査の概要

（２）調査結果の概要

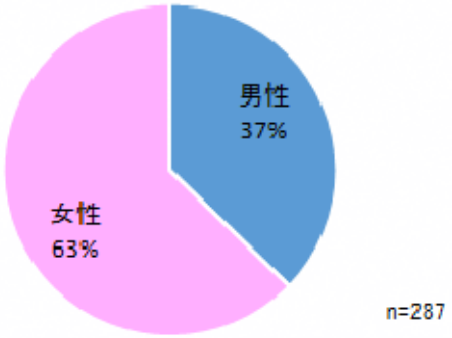
	回答者属性	路線バスの利用状況	自動車運転免許の返納状況	運行してほしい公共交通手段		公共交通のあり方
				交通手段	利用意向	
高齢者アンケート調査	・女性6割、男性4割。 ・65～69歳が最も多く、75歳以上後期高齢者が半数弱。	・吉野町で約3割が「利用したことがある」が、他町では大半の人が「利用したことがない」。	・80歳未満では返納者は少数。 ・今後の返納意向は、「数年以内に返納」が概ね5%以下と少数。	・各町とも「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」が最も多く、次いで「路線バス（定時定路線交通）」。	・「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」の利用意向は、「利用したい」「ときどき利用したい」を合わせ38～53%。	・各町とも「市民誰もが気軽に利用できるよう、市内全域に公共交通を運行すべきだ」が最も高い。
路線バス沿線住民アンケート調査	・女性6割、男性4割。 ・19～75歳以上の多様な年齢構成だが、65歳以上の高齢者は約半数。	・吉野町で約4割が「利用したことがある」が、阿波町では約1割に留まっている。	―		・「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」の利用意向は、「利用したい」「ときどき利用したい」を合わせ32～51%。	・各町とも「市民誰もが気軽に利用できるよう、市内全域に公共交通を運行すべきだ」が最も高い。
高校生アンケート調査	・女性、男性ともに5割。	・路線バスを利用する高校生は雨や雪の日に2人に留まる。	―	・「路線バス」が最も多いが、「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」を望んでいる地域も存在。	・「路線バス」の利用意向は「利用したい」「ときどき利用したい」を合わせ33～51%	―

3.計画策定のために行った調査の結果

１)高齢者アンケート調査

- 性別は、女性が6割と男性に比べて多くなっている。
- 年齢は最も多いのは65～69歳で、75歳以上の後期高齢者が半数弱となっている。
- 居住地は町別では、市場町が最も多く、次いで阿波町が多くなっている。

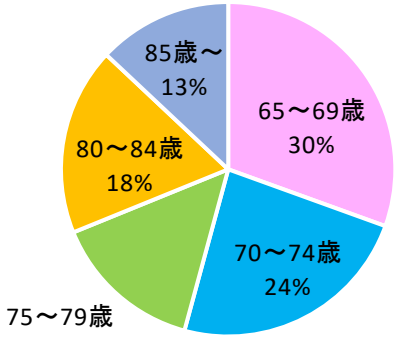
◆性別構成



n=287

※不明は除く

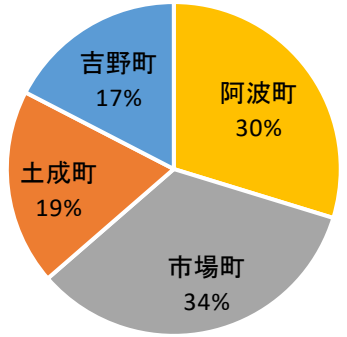
◆年齢構成



n=308

※不明は除く

◆居住地構成(町別)



n=316

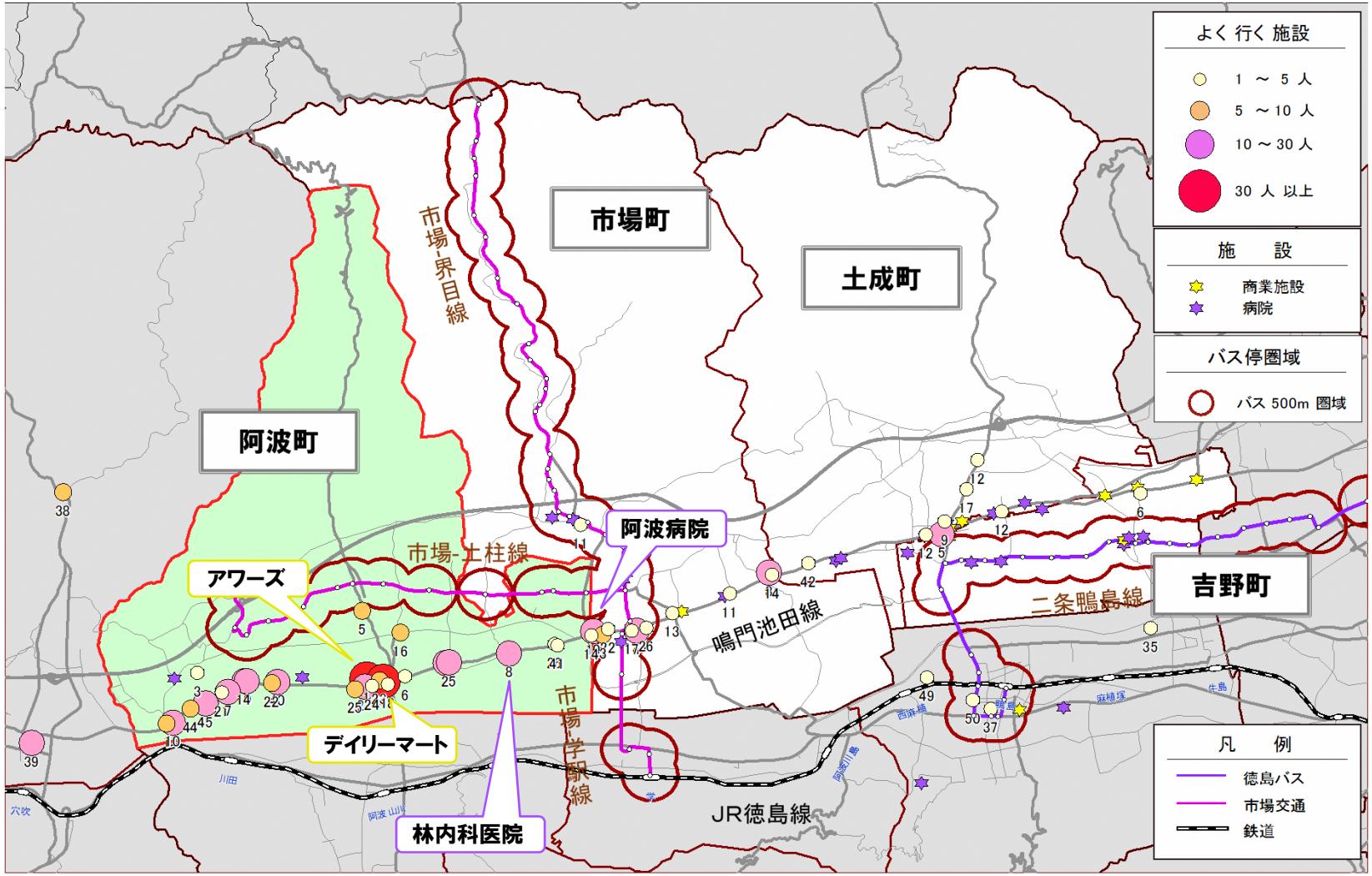
※不明は除く

3.計画策定のために行った調査の結果

1)高齢者アンケート調査

- 阿波町の方の目的地は、買物は阿波町内のアワーズ(48件)、デイリーマート(39件)が多く、通院は阿波町内の林内科医院(16件)や市場町の阿波病院(13件)が多くなっている。

◆居住エリア別の通院・買物の目的地(阿波町)



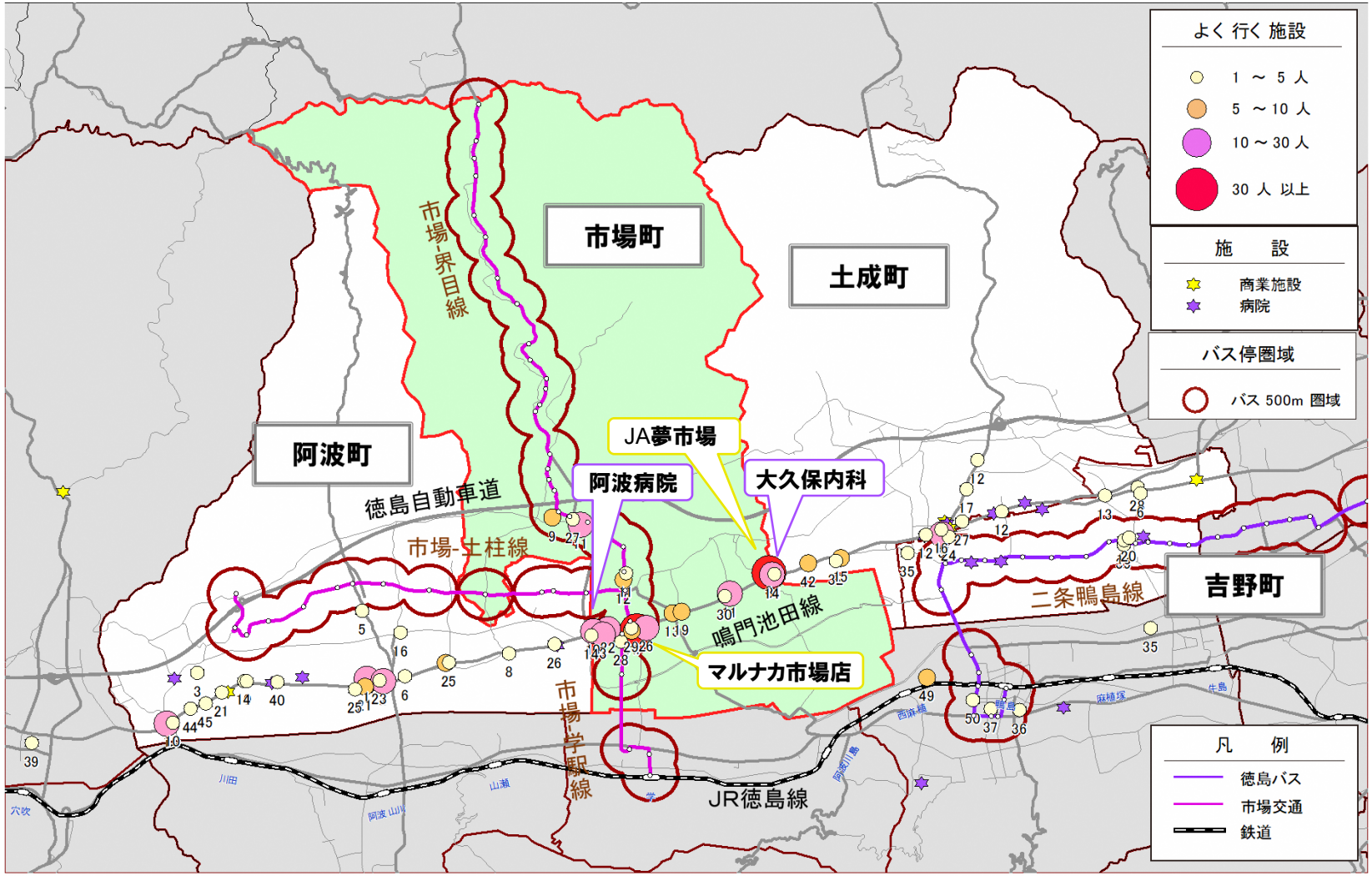
※不明は除く

3.計画策定のために行った調査の結果

1)高齢者アンケート調査

- 市場町の方の目的地は、買物は市場町内のマルナカ市場店（49件）、JA夢市場（36件）が多く、通院は市場町内の大久保内科（20件）、阿波病院（16件）が多くなっている。

◆居住エリア別の通院・買物の目的地（市場町）



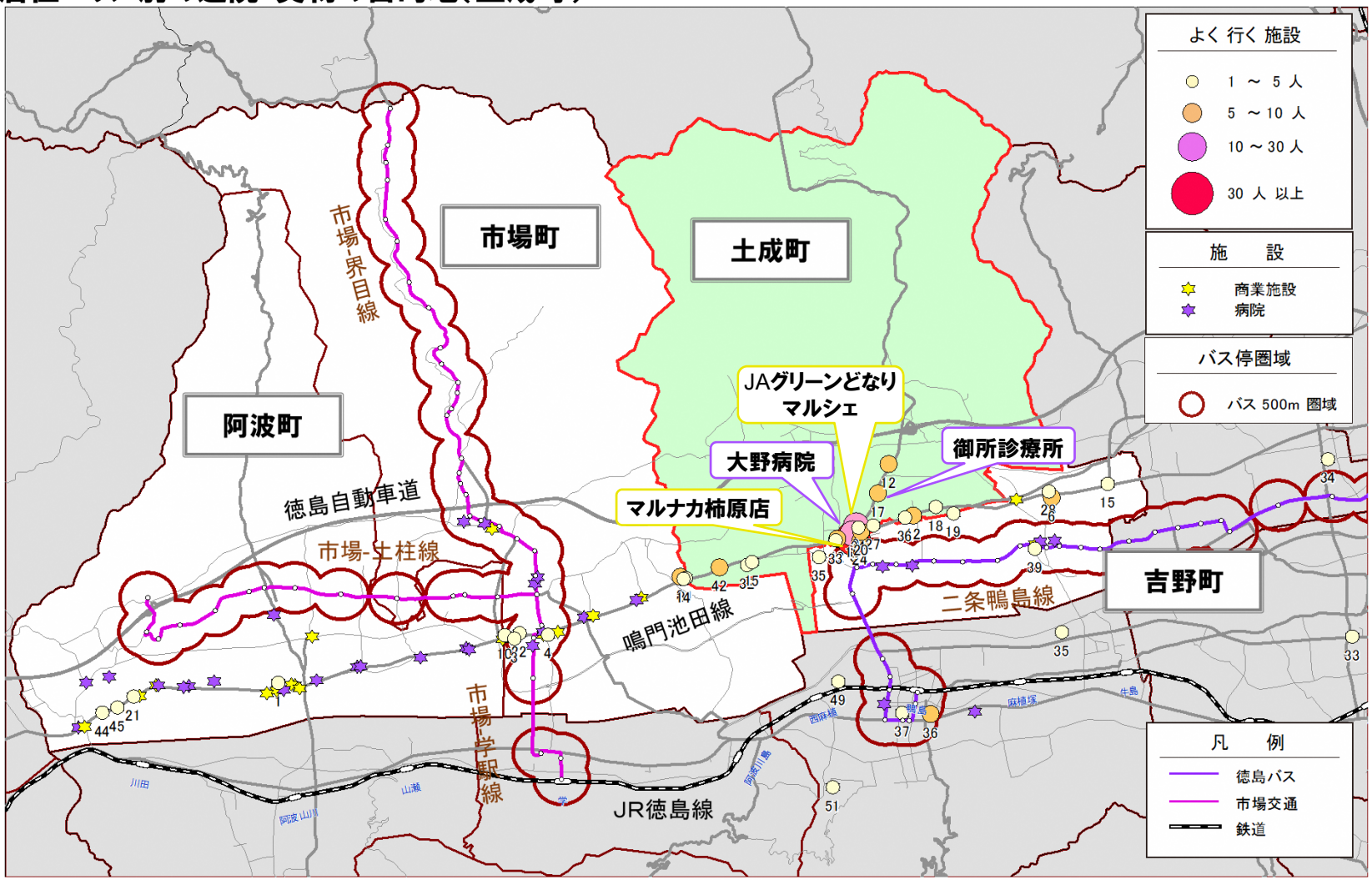
※不明は除く

3.計画策定のために行った調査の結果

1)高齢者アンケート調査

- 土成町の方の目的地は、買物は吉野町のマルナカ柿原店(34件)や土成町のJAグリーンどなりマルシェ(10件)が多く、通院では土成町の大野病院(14件)や御所診療所(8件)が多くなっている。

◆居住エリア別の通院・買物の目的地(土成町)



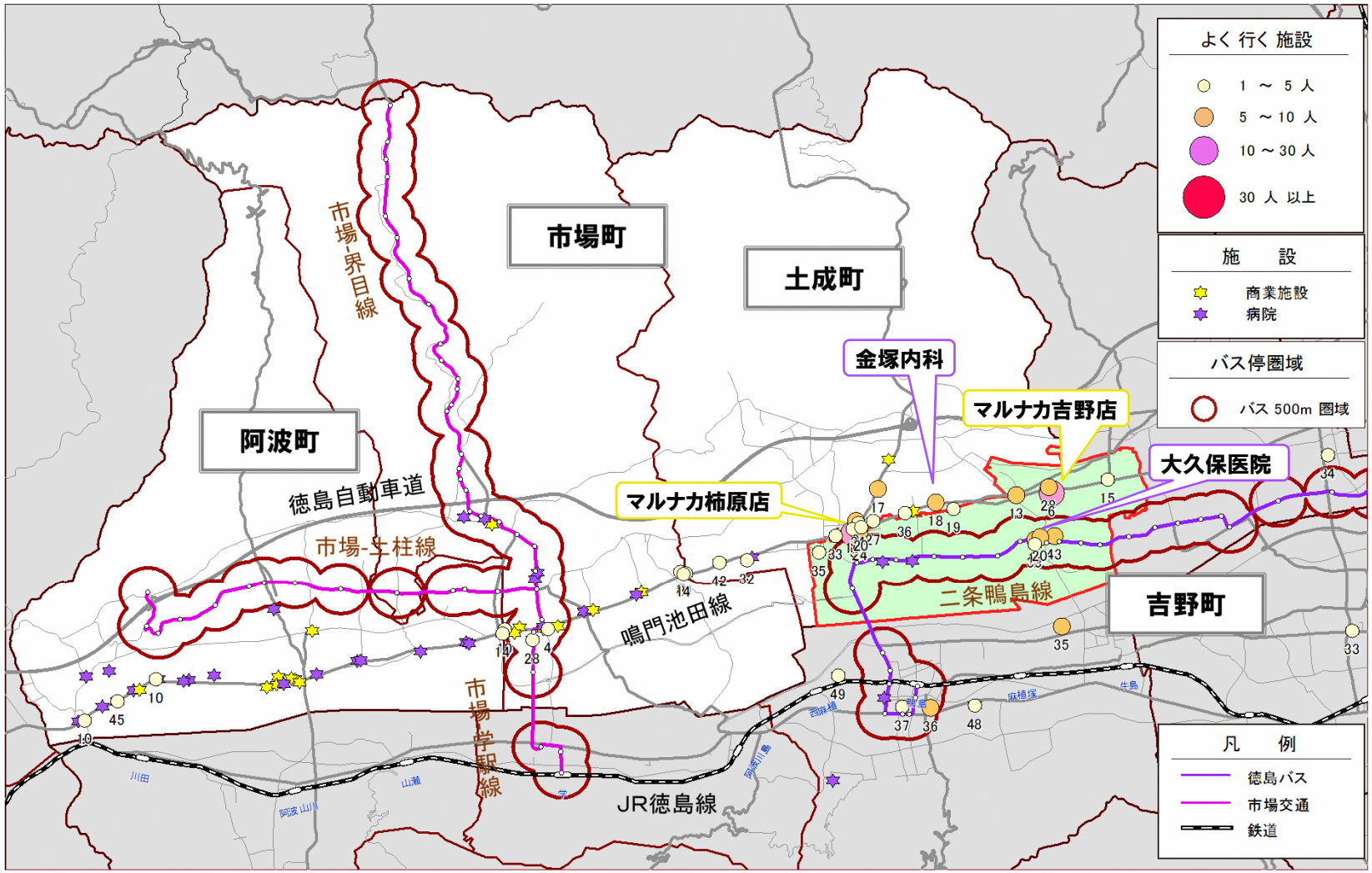
※不明は除く

3.計画策定のために行った調査の結果

1)高齢者アンケート調査

- 吉野町の方の目的地は、買物は吉野町内のマルナカ吉野店(24件)やマルナカ柿原店(21件)、通院では吉野町の大久保医院(8件)や土成町の金塚内科(7件)が多くなっている。

◆居住エリア別の通院・買物の目的地(吉野町)



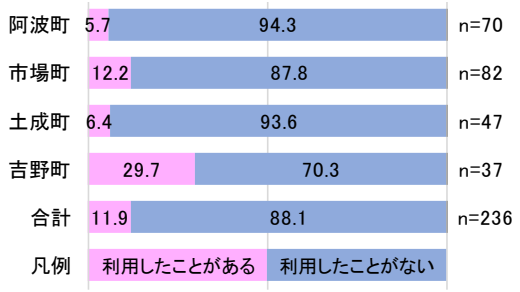
※不明は除く

3.計画策定のために行った調査の結果

1)高齢者アンケート調査

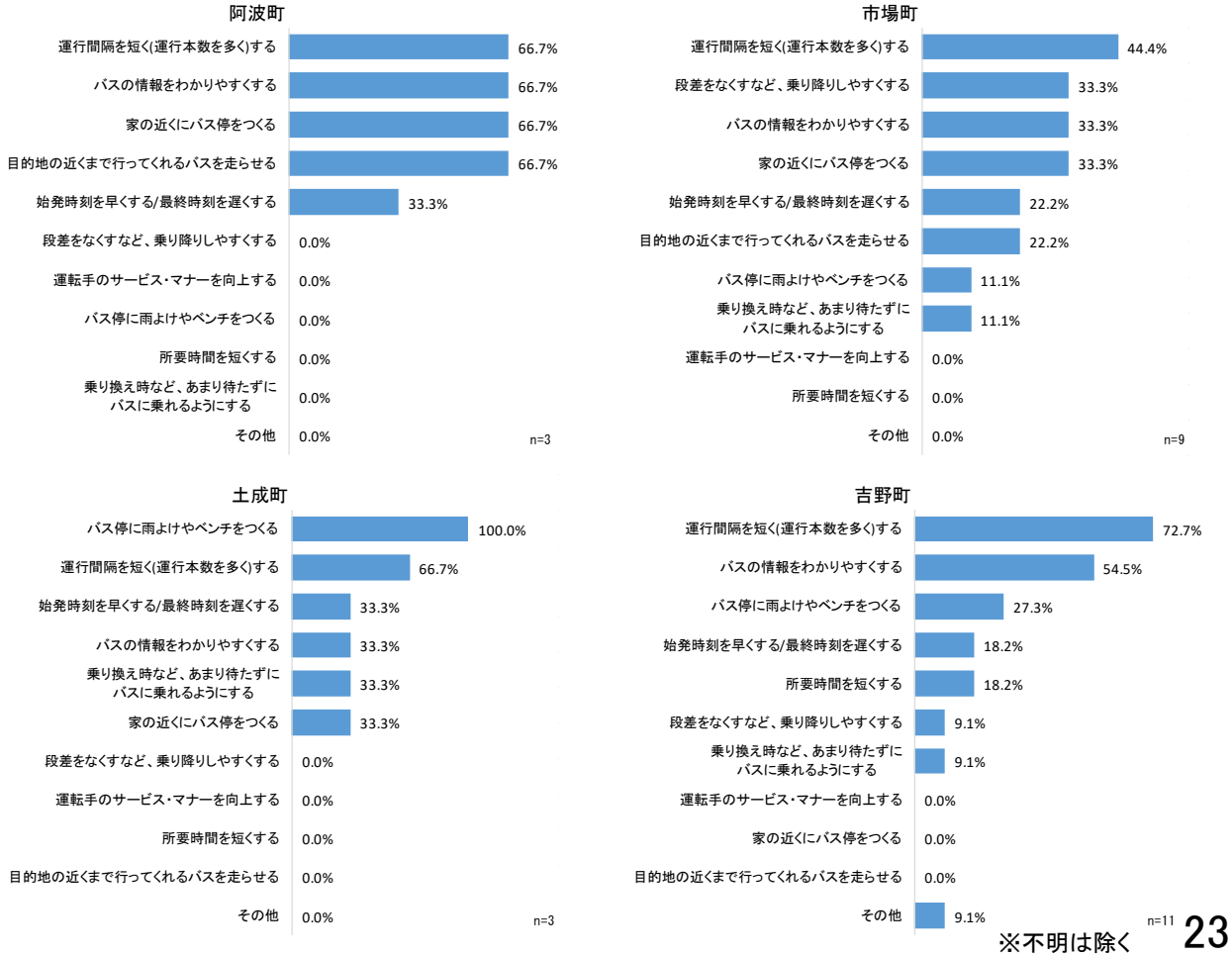
- 路線バスは、吉野町で29.7%の人が「利用したことがある」と回答しているが、他町では大半の人が「利用したことがない」と回答している。
- バス利用が増える条件は、阿波町、市場町、吉野町では「運行間隔を短く(運行本数を多く)する」が最も多くなっており、土成町では「バス停に雨よけやベンチをつくる」が多くなっている。また、阿波町、市場町、吉野町では「バスの情報をわかりやすくする」も多くなっている。

◆路線バスの利用状況



※不明は除く

◆バス利用が増える条件(路線バスを利用したことがあると回答した方が対象)



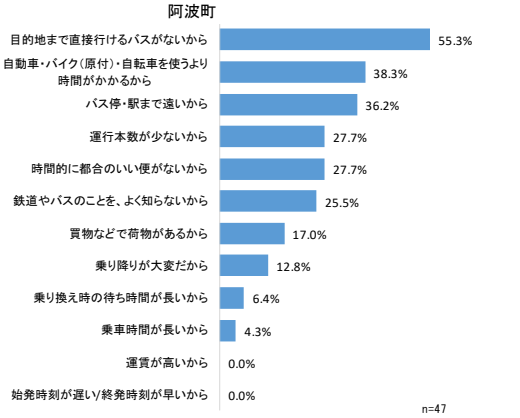
※不明は除く

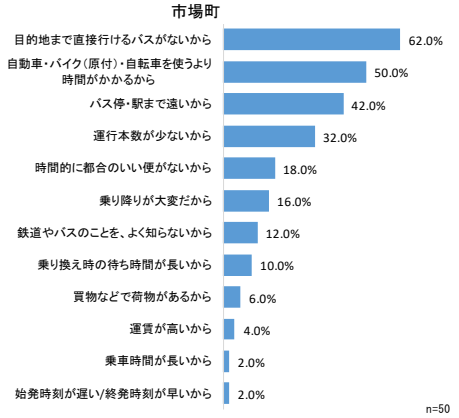
3.計画策定のために行った調査の結果

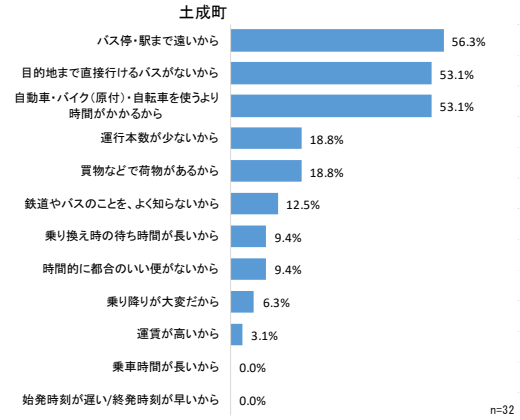
1)高齢者アンケート調査

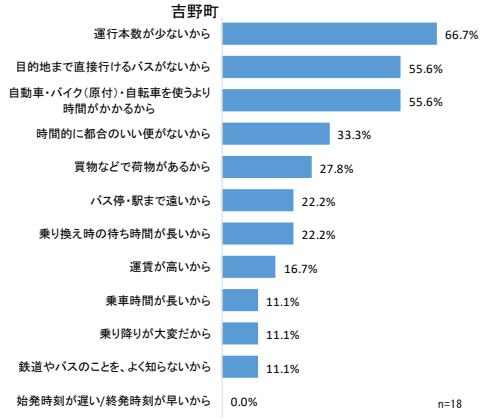
- 路線バスを利用しない理由は、阿波町と市場町では「目的地まで直接行けるバスがないから」が最も多く、次いで「自動車・バイク（原付）・自転車を使うより時間がかかるから」が多くなっている。
- 土成町は「バス停・駅まで遠いから」が最も多く、次いで「目的地まで直接行けるバスがないから」と「自動車・バイク（原付）・自転車を使うより時間がかかるから」が多くなっている。
- 吉野町は「運行本数が少ないから」が最も多く、次いで「目的地まで直接行けるバスがないから」と「自動車・バイク（原付）・自転車を使うより時間がかかるから」が多くなっている。
- いずれの町も「目的地まで直接行けるバスがないから」が共通で上位となっている。

◆路線バスを利用しない理由（利用したことがないと答えた方が対象）









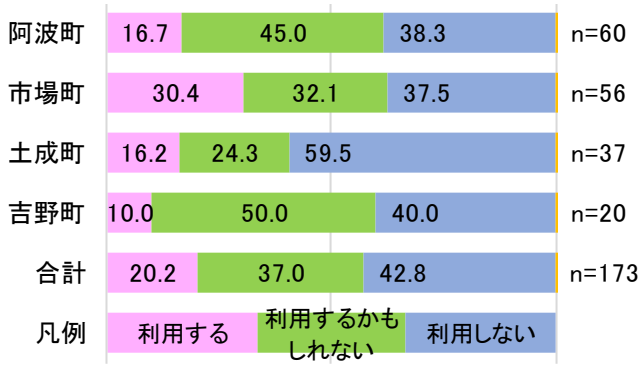
※不明は除く

3.計画策定のために行った調査の結果

1)高齢者アンケート調査

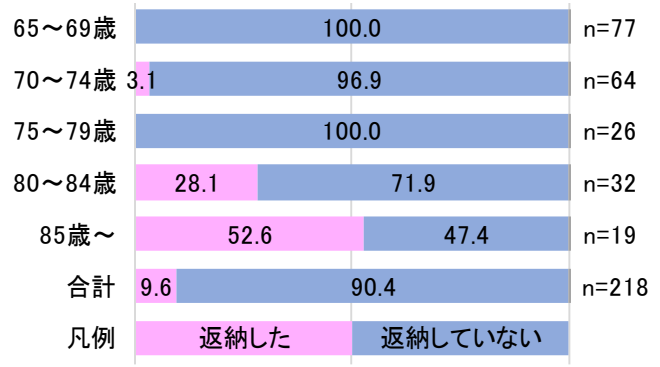
- 路線バスを利用しない理由が改善された場合の利用意向は、「利用する」「利用するかもしれない」を合わせると、阿波町、市場町、吉野町では約6割以上となっているが、土成町は約4割に留まっている。「利用する」に着目すると市場町は30.4%となっているが、吉野町は10.0%に留まる。
- 自動車運転免許証の返納状況は、「返納した」が80～84歳で28.1%、85歳以上で52.6%と多くなっているが、80歳未満では返納する人は少数に留まっている。
- 今後の自動車運転免許証の返納意向は、「数年以内には返納すると思う」はいずれも概ね5%以下と少数に留まっている。

◆路線バスを利用いない理由がひとつでも改善した場合の利用意向



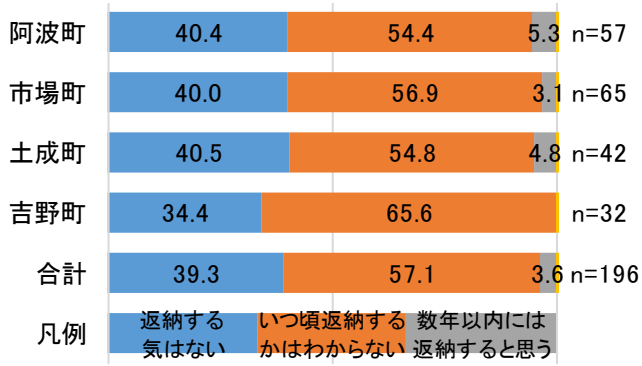
※不明は除く

◆運転免許証の返納状況



※不明は除く

◆今後の運転免許証の返納意向



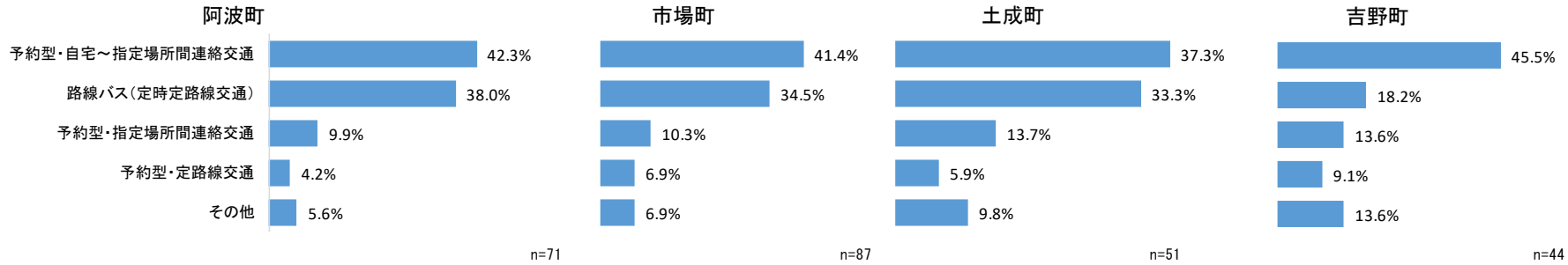
※不明は除く

3.計画策定のために行った調査の結果

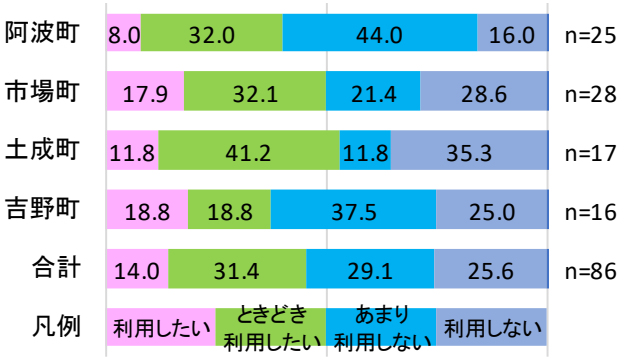
1)高齢者アンケート調査

- 阿波市で運行してほしい公共交通手段は、いずれの町も「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」（※別紙イメージ図参照）が最も多くなっており、次いで「路線バス（定時定路線交通）」が多くなっている。
- 運行希望が最も多かった「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」を運行した場合の利用意向は、「利用したい」「ときどき利用したい」を合わせて37.6%～53%となっている。
- 阿波町・市場町では路線バス（定時定路線交通）で「利用したい」「ときどき利用したい」を合わせると約6～7割と高くなっている。

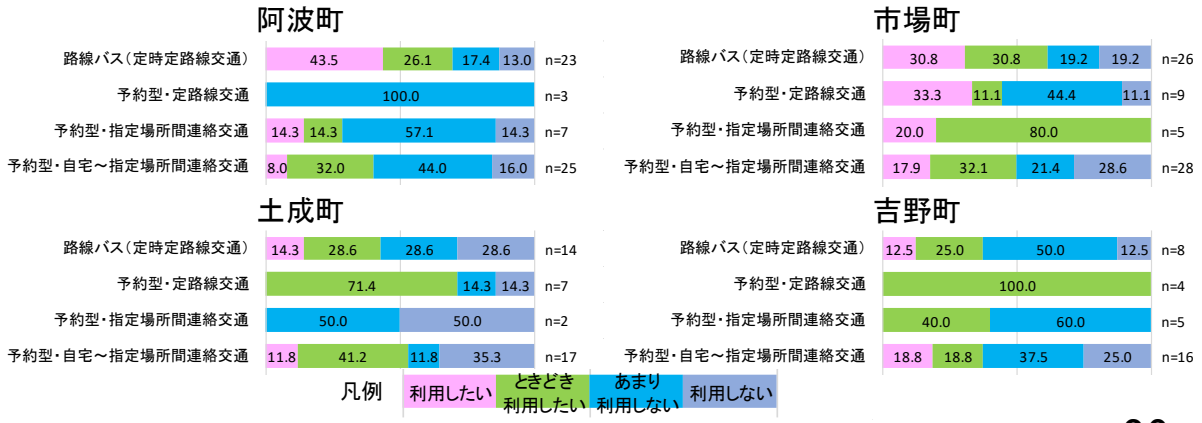
◆阿波市で運行してほしい公共交通手段



◆予約型・自宅～指定場所間連絡交通を運行した場合の利用意向



◆各モードを運行した場合の利用意向

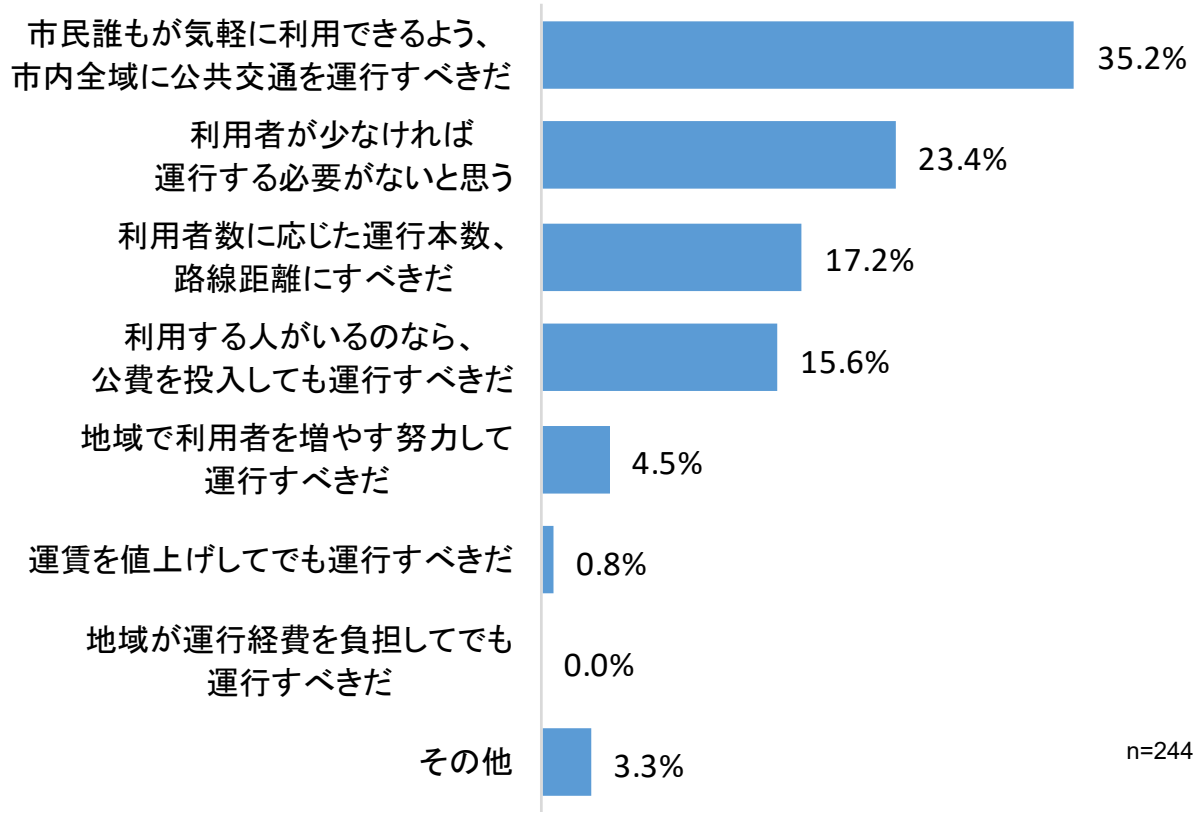


3.計画策定のために行った調査の結果

1)高齢者アンケート調査

- 今後の阿波市の公共交通について、「市民誰もが気軽に利用できるよう、市内全域に公共交通を運行すべきだ」が35.2%と最も多くなっている。

◆今後の公共交通について



3.計画策定のために行った調査の結果

１)高齢者アンケート調査

● 高齢者アンケート調査の結果より、以下のことがわかった。

〔アンケートからわかったこと①〕

・高齢者がよく利用する主要な医療機関や商業施設は、鳴門池田線沿いに点在しており、中核となる総合病院（阿波病院）、医療機関（大野病院、林内科医院、大久保内科、御所診療所、金塚内科）や商業施設（アワーズ、デイリーマート、マルナカ市場店・柿原店・吉野店、ＪＡ夢市場、ＪＡグリーンどなりマルシェなど）の利用が多くなっている。これらのうち、マルナカ市場店等一部の店舗を除いて、路線バスの運行経路外の施設が多くなっている。

・路線バスの利用について、路線バスが運行されている吉野町は約3割の人が「利用したことがある」と回答しているものの、阿波町、市場町、土成町では約1割と低く、全体でも約1割と低くなっている。

・路線バス利用が増える条件は、阿波・市場・吉野町で「運行間隔を短く（運行本数を多くする）する」が最も多くなっている。また、阿波・市場・吉野町では「バス情報をわかりやすくする」も多くなっている。

・路線バスを利用しない理由は、「目的地まで直接行けるバスがないから」「バス停・駅まで遠いから」「運行本数が少ないから」「自動車・バイク（原付）・自転車を使うより時間がかかるから」が多く、バス路線数、バス停数、運行本数が原因と考えられる。

・路線バスを利用しない理由をひとつでも改善した場合でも、「利用する」との回答は、市場町で約3割、吉野町でも約1割となっている。「利用する」「利用するかもしれない」を合わせると全体で約6割あり、利用しないとの回答が約4割ある。特に土成町においては約6割の人が利用しないと回答している。

・運転免許証の返納について、80歳以上で返納が多くなっており、80歳未満では少数に留まっている。返納についての意思は、「いつ頃返納するかわからない」「する気はない」が9割を超えている。

路線バスはよく利用されている施設へのアクセスが困難で、
利用率は約１割となっており、路線バスの他にも市民の移動ニーズに対応し、
運転免許証の返納を促進する交通手段が必要。

3.計画策定のために行った調査の結果

１)高齢者アンケート調査

● 高齢者アンケート調査の結果より、以下のことがわかった。

〔アンケートからわかったこと②〕

・阿波市で運行して欲しい公共交通手段は、「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」への希望が多く、次いで「路線バス」となっている。

・希望が多い「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」を導入した場合の利用意向は、「利用したい、ときどき利用したい」を合わせると約４～５割、「路線バス」については約４～７割となっており、阿波町・市場町では６割を超えている。

・今後の阿波市の公共交通について、「市民誰もが気軽に利用できるよう、市内全体に公共交通を運行すべき」との意見が約４割と最も多くなっている。

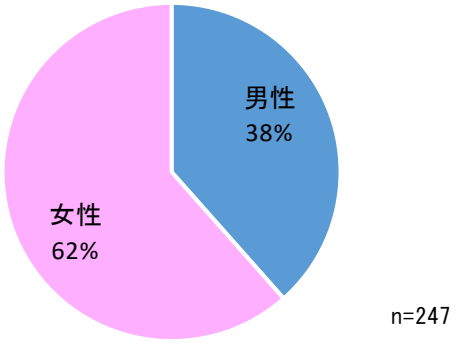
市全域で、市民誰もが気軽に利用できる公共交通として
「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」の運行検討が必要。

3.計画策定のために行った調査の結果

２)路線バス沿線住民アンケート調査

- 性別は、女性が6割と男性に比べて多くなっている。
- 年齢は、19～75歳以上の多様な年齢構成となっている。65歳以上の高齢者は約半数となっている。
- 居住地は市場町が42%と最も多く、次いで吉野町、阿波町となっている。

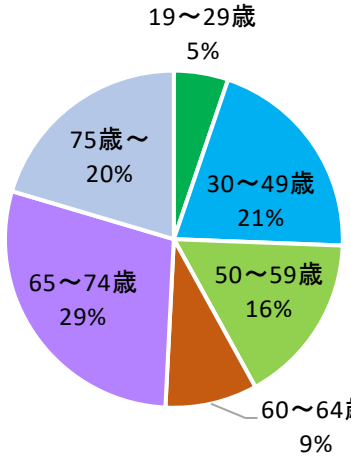
◆性別構成



n=247

※不明は除く

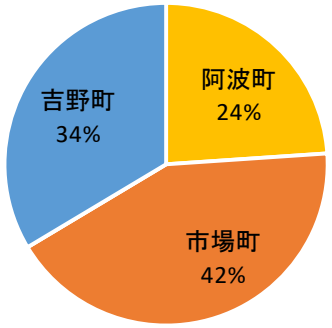
◆年齢構成



n=250

※不明は除く

◆居住地構成(町別)



n=259

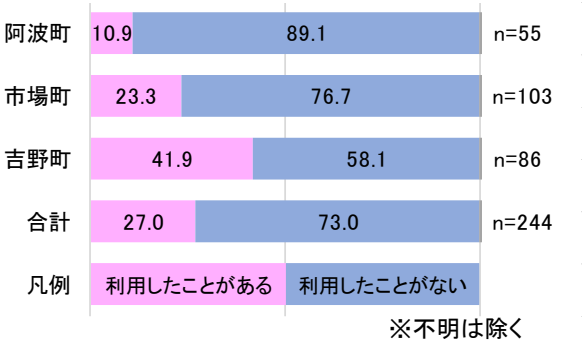
※不明は除く

3.計画策定のために行った調査の結果

2)路線バス沿線住民アンケート調査

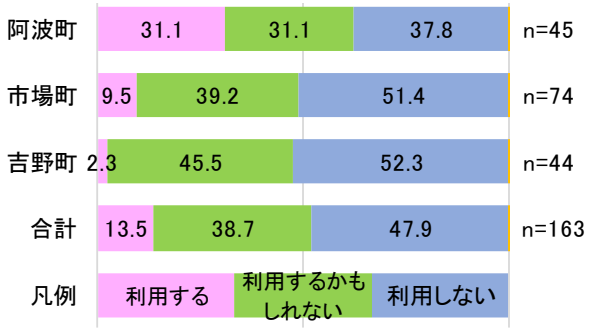
- 路線バスはの利用状況は、「利用したことがある」は吉野町で41.9%と比較的高くなっているが、市場町では23.3%、阿波町では10.9%と低調な利用状況となっている。
- 路線バスを利用しない理由は、阿波町では「目的地まで行けるバスがないから」が最も多く、次いで「運行本数が少ないから」が多くなっており、市場町では「運行本数が少ないから」が最も多く、次いで「目的地まで行けるバスがないから」が多くなっている。阿波町と市場町は上位2位までが同じ理由となっている。吉野町は「自動車・バイク(原付)・自転車を使うより時間がかかるから」が最も多く、次いで「運行本数が少ないから」が多くなっている。いずれの町も「運行本数が少ないから」が共通で上位に上がっている。
- 路線バスを利用しない理由が改善された場合の利用意向は、「利用する」「利用するかもしれない」を合わせると概ね半数以上となるが、「利用する」に着目すると阿波町は31.1%となっているが市場町は9.5%、吉野町は2.3%に留まる。

◆路線バスの利用状況

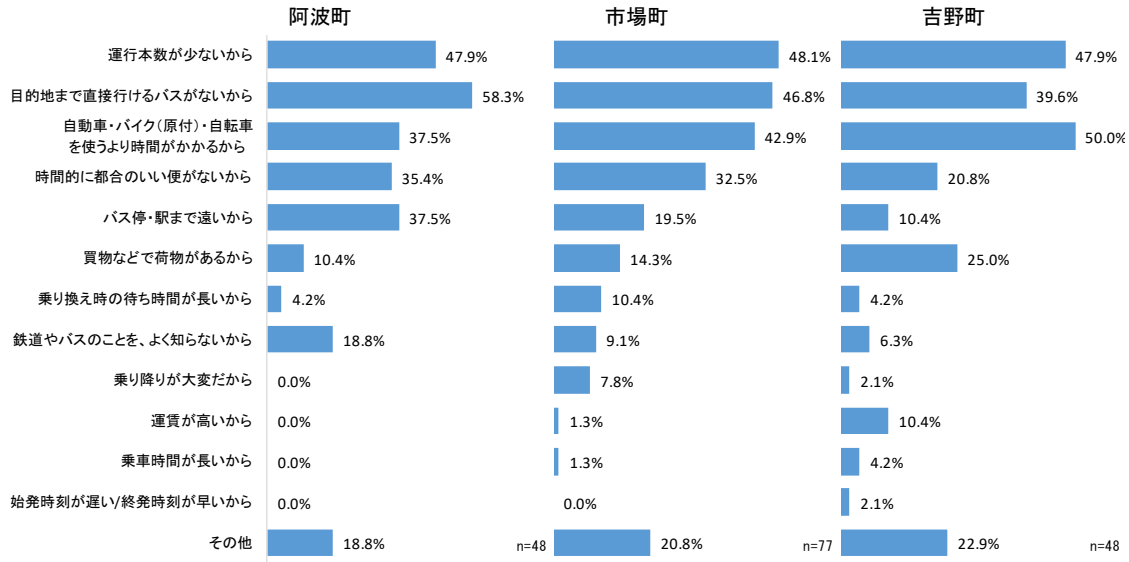


※不明は除く

◆路線バスを利用しない理由が改善された場合の利用意向



◆路線バスを利用しない理由

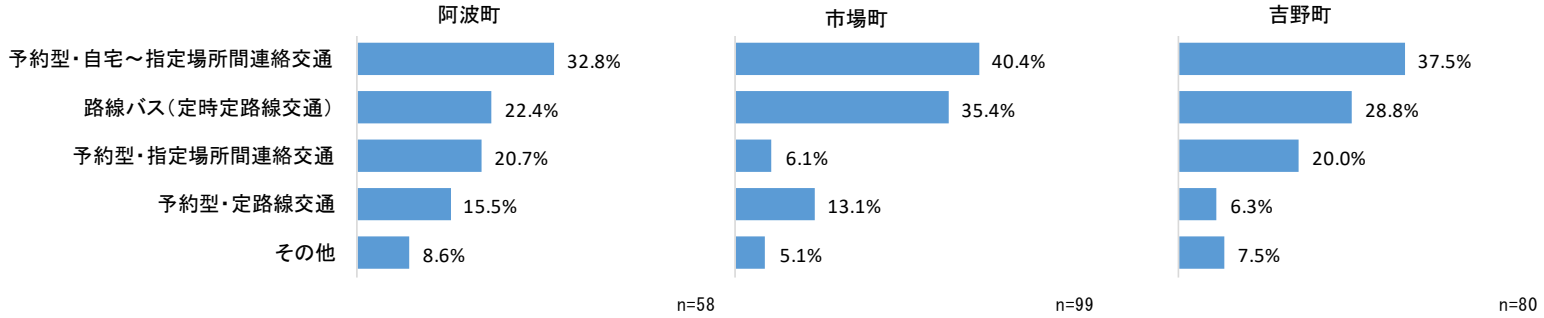


3.計画策定のために行った調査の結果

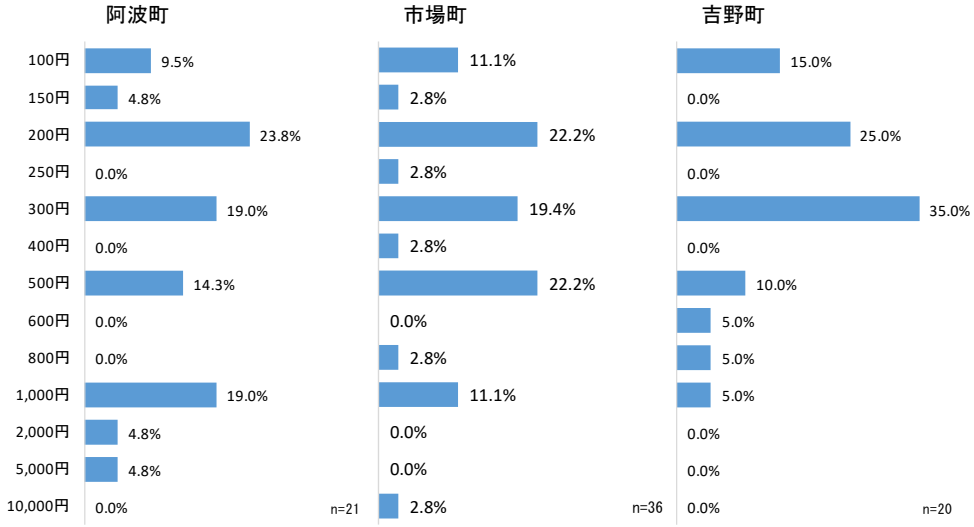
2)路線バス沿線住民アンケート調査

- 阿波市で運行してほしい公共交通手段は、いずれの町も「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」が最も多くなっており、次いで「路線バス(定時定路線交通)」が多くなっている。
- 上述の公共交通を利用する場合に妥当と思う1回の利用料金は、阿波町は200円が最も多く、市場町は200円と500円が同程度となっており、吉野町は300円が最も多くなっている。傾向として、500円以内の運賃が妥当という結果になっている。

◆阿波市で運行してほしい公共交通手段



◆公共交通手段を利用する場合、妥当と思う1回の利用料金



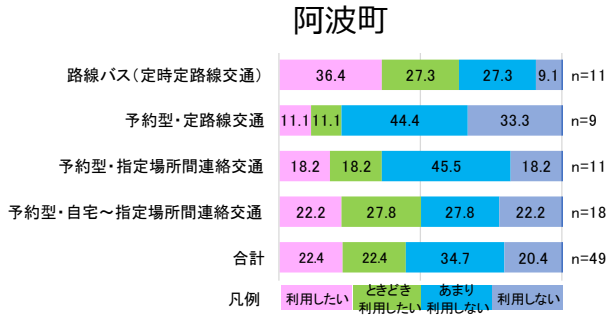
3.計画策定のために行った調査の結果

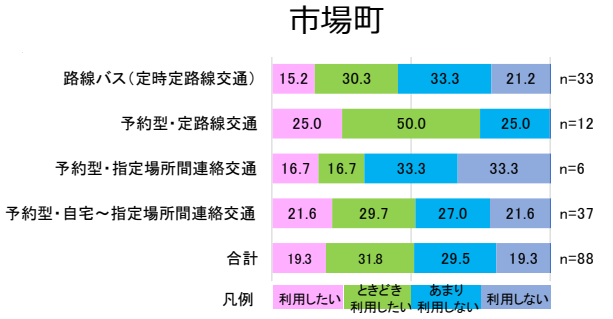
2)路線バス沿線住民アンケート調査

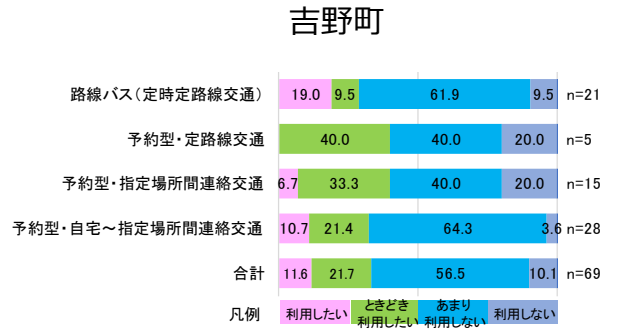
- 運行希望が最も多かった「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」を運行した場合の利用意向は、阿波町、市場町では「利用したい」「ときどき利用したい」を合わせて約5割となっているが、吉野町では32.1%とやや低い。
- 阿波町では、「利用したい」「ときどき利用したい」を合わせると路線バス（定時定路線交通）で最も高くなっており、次いで「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」で高くなっている。
- 「利用したい」「ときどき利用したい」が市場町では「予約型・定路線交通」で高く、吉野町では「予約型・定路線交通」と「予約型・指定場所間連絡交通」が同程度となっている。

◆予約型・自宅～指定場所間連絡交通を運行した場合の利用意向

◆各モードを運行した場合の利用意向





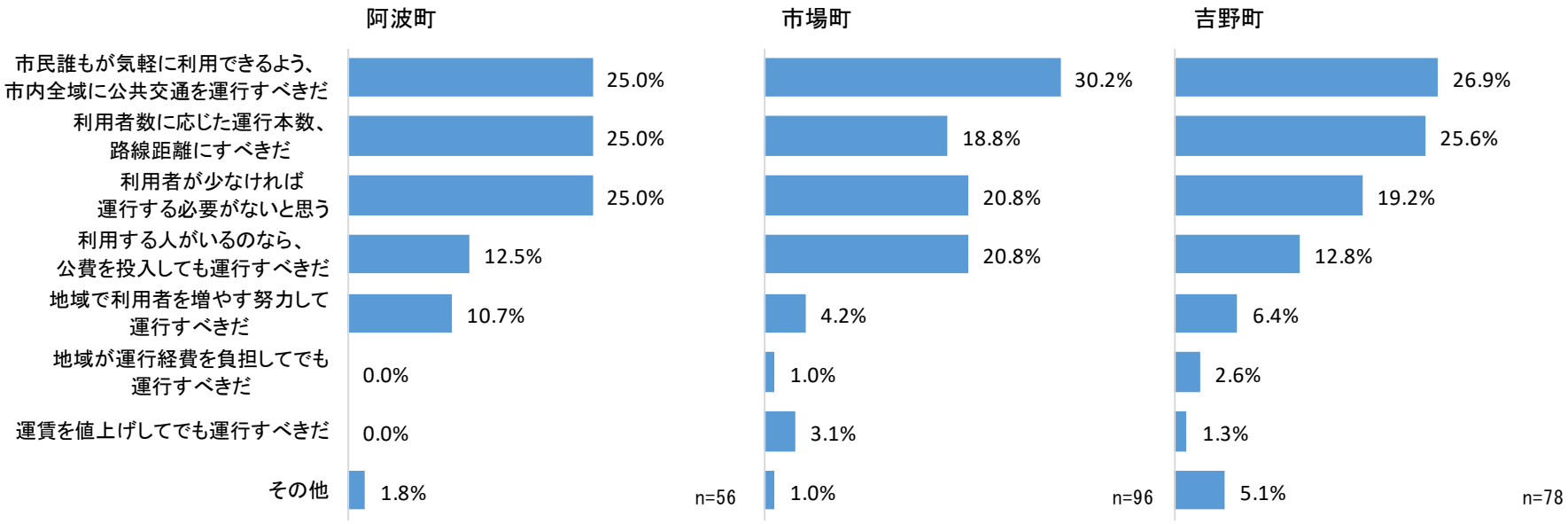


3.計画策定のために行った調査の結果

2)路線バス沿線住民アンケート調査

- 今後の公共交通は、いずれの町も「市民誰もが気軽に利用できるよう、市内全域に公共交通を運行すべきだ」が最も高くなっている。
- 阿波町では、この他、「利用者数に応じた運行本数、路線距離にすべきだ」「利用者が少なければ運行する必要がないと思う」がいずれも同程度となっている。
- 市場町では、次いで多いのが「利用する人がいるのなら、公費を投入しても運行すべきだ 」「利用者が少なければ運行する必要がないと思う」がいずれも同程度となっている。
- 吉野町では、次いで多いのが「利用者数に応じた運行本数、路線距離にすべきだ」となっている。

◆今後の公共交通について



3.計画策定のために行った調査の結果

２）路線バス沿線住民アンケート調査

● 路線バス沿線住民アンケート調査の結果より、以下が課題と考えられる。

〔アンケートからわかったこと①〕

・路線バスの利用状況は「利用したことがある」は吉野町で約4割と比較的多くなっているが、市場町で約2割、阿波町で約1割と低調となっており、路線バスの利用が増える条件は「家の近くにバス停を作る」「運行間隔を短く（運行本数を多く）する」が多くなっている。

・路線バスを利用したことがない方の「利用しない理由」は、「目的地まで直接いけるバスが無い」「運行本数が少ない」「自動車等を使うより時間がかかる」が多くなっている。

・路線バスを利用しない理由をひとつでも改善した場合「利用する」との回答は、阿波町で約3割となっているが、市場町、吉野町では1割未満に留まっている。「利用する」「利用するかもしれない」を合わせると全体で約5割あり、利用しないとの回答が約5割ある。特に市場・吉野町では利用しないという意見が多い。

路線バスは少ないバス停数や運行本数を改善した場合でも、「利用しない」が約5割存在しており、市民の移動ニーズに対応する交通手段が必要。

3.計画策定のために行った調査の結果

２）路線バス沿線住民アンケート調査

● 路線バス沿線住民アンケート調査の結果より、以下が課題と考えられる。

〔アンケートからわかったこと②〕

・阿波市で運行して欲しい公共交通手段は、「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」への希望が多く、次いで「路線バス」への希望が多い。

・「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」を導入した場合の利用意向は、「利用したい、ときどき利用したい」を合わせると約3割～約5割となっており、市場・阿波町については5割を超えている。「路線バス」については、約3割～約6割となっており、阿波町については6割を超えている。

・今後の公共交通については、いずれの町でも「市民誰もが気軽に利用できるよう、市内全体に公共交通を運行すべきだ」が最も多い。

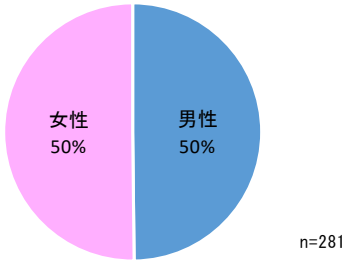
市全域で、市民誰もが気軽に利用できる公共交通として、
「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」の運行検討が必要。

3.計画策定のために行った調査の結果

3）高校生アンケート調査

- 性別は男性・女性とも5割となっている。
- 阿波高校は市外からの通学者が過半数を占めており、阿波西高校、川島高校、つるぎ高校、脇町高校は林地区や市場地区、吉野川高校は御所地区や土成地区からの通学が多くなっている。
- 地区別では、市内の阿波高校と阿波西高校を合わせると過半数になっている地区が多いが、御所地区は吉野川高校、大俣地区は脇町高校が多くなっている。

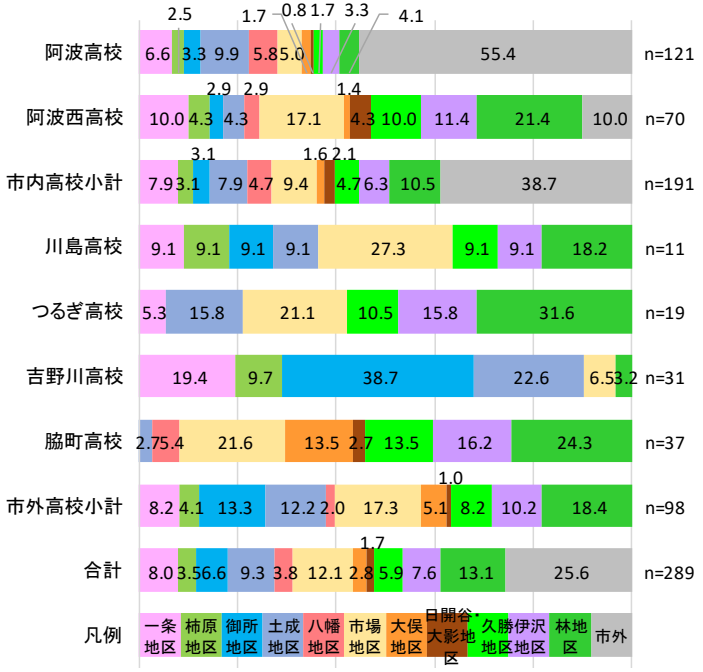
◆性別構成



n=281

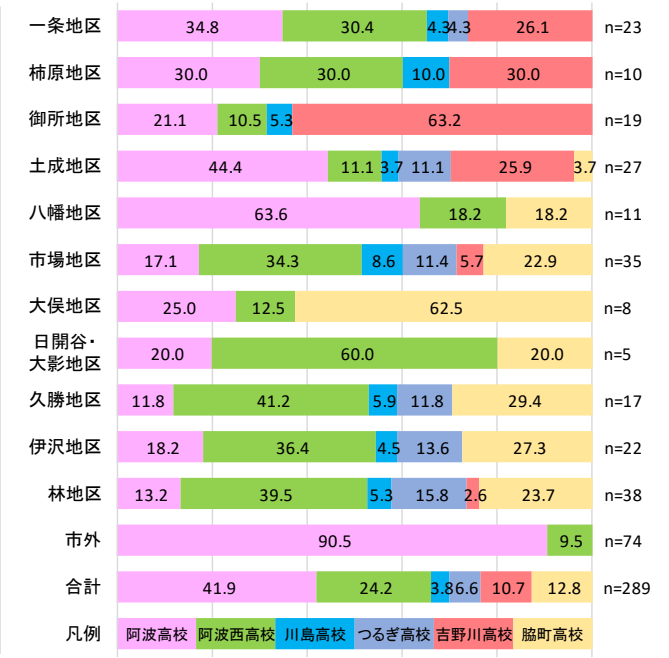
※不明は除く

◆学校別居住地構成



※不明は除く

◆居住地別学校の構成



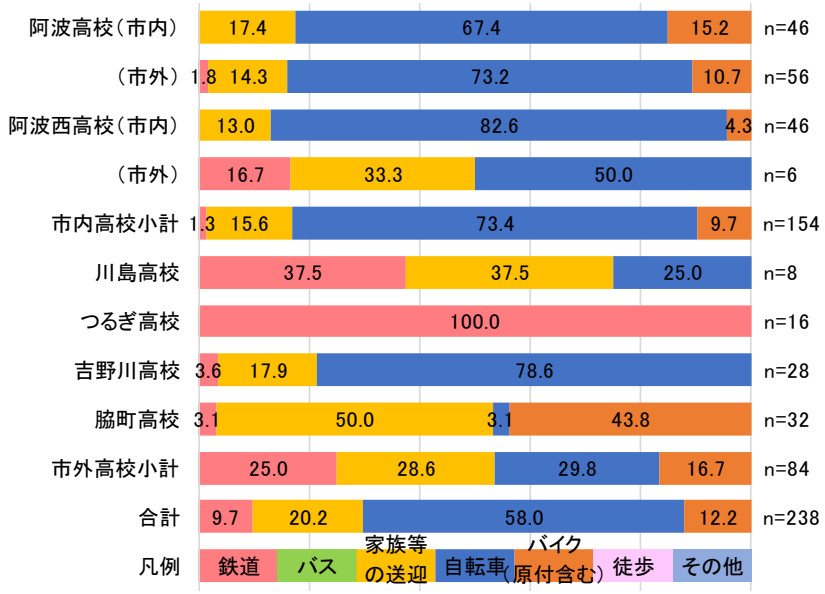
※不明は除く

3.計画策定のために行った調査の結果

3)高校生アンケート調査

- 利用している交通手段は、阿波高校は市内居住者、市外居住者とも自転車が約6～7割と最も多く、阿波西高校は市内居住者は自転車が約8割、市外居住者は約5割となっている。また、阿波市から市外の高校への通学として、川島高校は鉄道と家族等の送迎が約4割、つるぎ高校は全て鉄道、吉野川高校は自転車が約8割、脇町高校は家族等の送迎が約5割となっている。脇町高校ではバイクも約4割と多くなっている。いずれの高校にもバスの利用者はいない。
- 鉄道駅利用者の乗り替え手段については、自転車が6割と多くなっており、次いで家族の送迎が3割となっている。バスの利用者はいない。

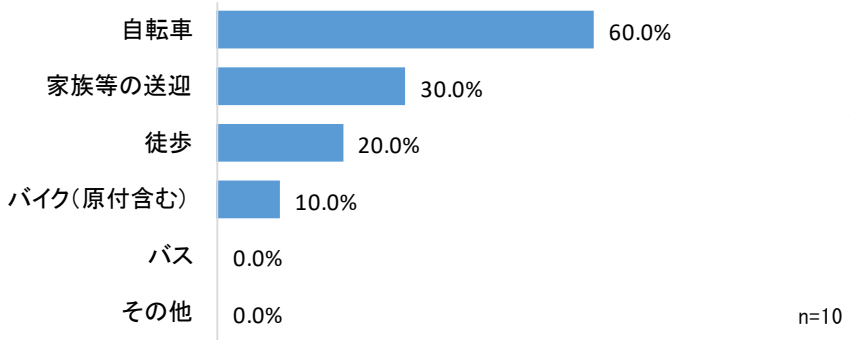
◆登校時・下校時の交通手段



※阿波高校と阿波西高校は市内居住者と市外居住者別に分けて集計

※不明は除く

（鉄道利用者の乗り替え手段）



※高校計で10人のため合算値を提示

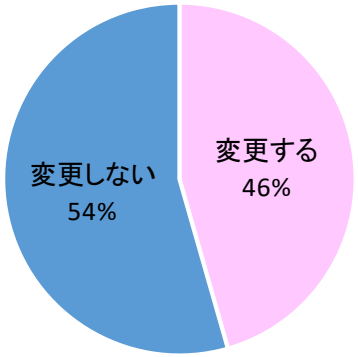
※不明は除く

3.計画策定のために行った調査の結果

3)高校生アンケート調査

- 雨や雪の日に登下校時に交通手段を変更する人は半数弱となっている。
- 雨や雪の日に変更する交通手段は、いずれの高校も登下校とも家族の送迎が大半を占めている。登校時、つるぎ高校の鉄道利用者のうち、約4割が「家族等の送迎」に変わっている。
- 下校時には阿波高校の市外通学者やつるぎ高校でバスの利用がある。

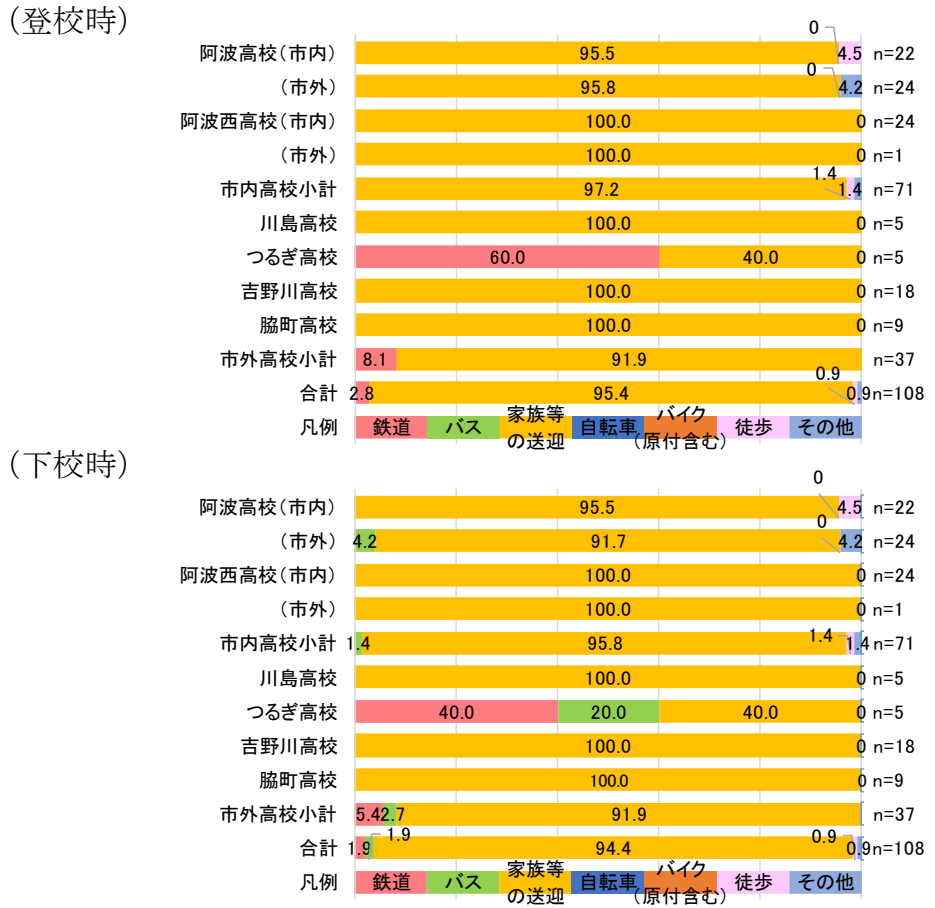
◆雨や雪の日に交通手段を変えるか



n=237

※不明は除く

◆雨や雪の日に変更する交通手段



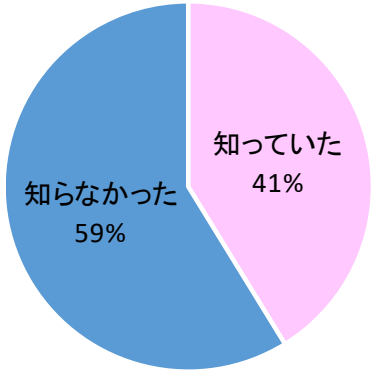
※阿波高校と阿波西高校は市内居住者と市外居住者別に分けて集計　※不明は除く

3.計画策定のために行った調査の結果

3)高校生アンケート調査

- 通学でバスを利用していない人のうち、阿波市内の路線バスを知っていた人は約4割となっており、約6割が「知らなかった」となっている。
- バスを利用しない理由は、「徒歩、自転車で通学できる」が約6割と最も多く、次いで「近くにバス停が無い」が約4割、「運行本数が少なくて不便」が約3割となっている。

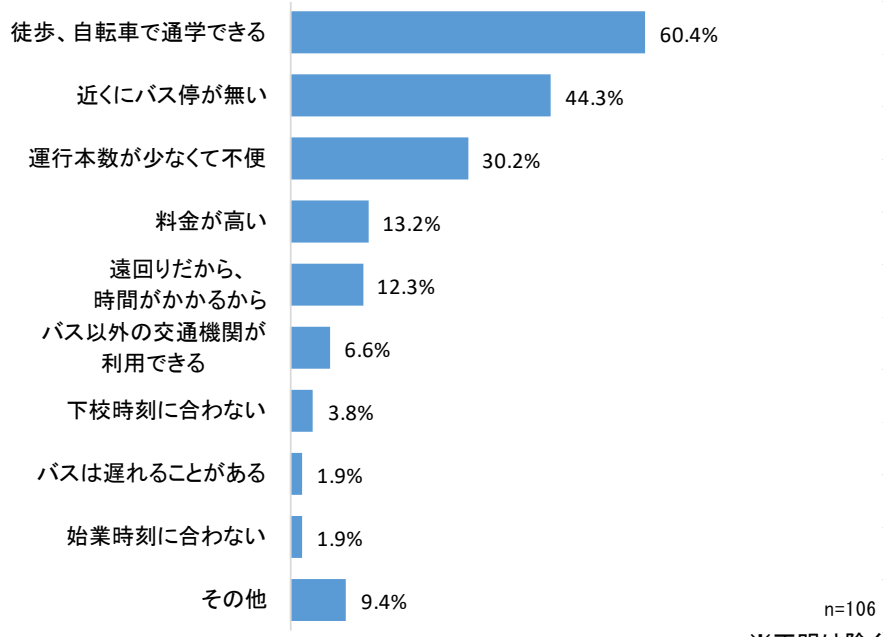
◆市内路線バスの認知度（通学でバスを利用しない方）



n=262

※不明は除く

◆バスを利用しない理由（通学でバスを利用しない方）



n=106

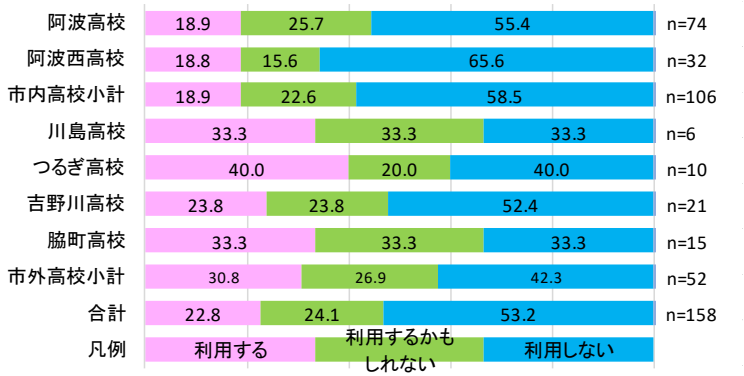
※不明は除く

3.計画策定のために行った調査の結果

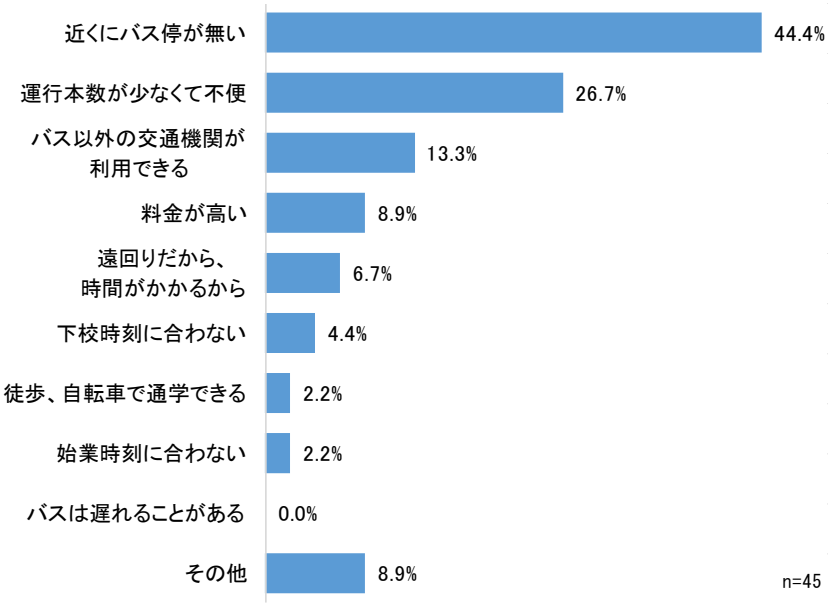
3)高校生アンケート調査

- 路線バスを「利用しない理由」がひとつでも改善された場合の利用意向は、市合計では「利用する」と「利用するかもしれない」を合わせて半数弱となっている。
- 高校別では、「利用する」と「利用するかもしれない」を合わせて、川島高校、つるぎ高校、脇町高校で半数を超えているが、その他の高校は半数未満となっている。
- 利用するために改善してほしい内容は「近くにバス停が無い」が約4割と最も多くなっている。

◆路線バスを利用しない理由がひとつでも改善された場合の利用意向



◆利用するために改善してほしい内容



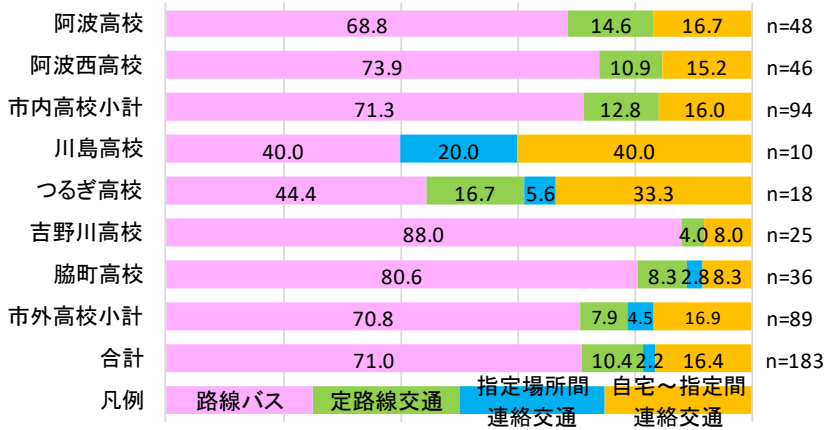
※不明は除く

3.計画策定のために行った調査の結果

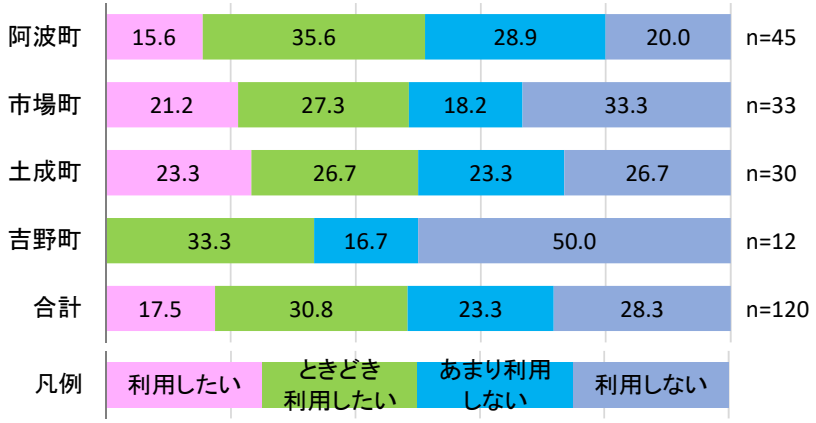
3）高校生アンケート調査

- 将来、阿波市で運行して欲しい交通手段は、阿波高校、阿波西高校、吉野川高校、脇町高校で約69～88%が「路線バス」となっている。
- 川島高校、つるぎ高校でも路線バスが多いものの、「自宅～指定間連絡交通」が他高校よりも多くなっている。
- 将来、阿波市で運行してほしい交通手段別の利用意向は、最も多かった路線バスに着目すると、「利用したい」と「ときどき利用したい」を合わせて市合計で約5割、「利用したい」のみでは2割未満となっている。

◆将来、阿波市で運行してほしい交通手段



◆将来、阿波市で運行してほしい交通手段（路線バス）の利用意向



※不明は除く

3.計画策定のために行った調査の結果

3)高校生アンケート調査

● 高校生アンケート調査の結果より、以下のことがわかった。

〔アンケートからわかったこと〕

・高校生の通学手段は自転車が約6割と最も多く、次いで家族の送迎が多くなっている。また、鉄道利用の乗り替え手段でも同様の傾向となっている。

・雨や雪の日に登下校時に交通手段を変更する人は半数弱となっており、その大半が「家族の送迎等」となっている。

・路線バスを利用しない理由は「徒歩、自転車で通学できる」が約6割と最も多く、次いで「近くにバス停が無い」が約4割、「運行本数が少なくて不便」が約3割となっている。

・「利用しない理由」がひとつでも改善された場合の路線バス利用意向は、市合計では「利用する」と「利用するかもしれない」を合わせて半数弱となっている。

・利用するために改善してほしい内容は「近くにバス停が無い」が4割弱と最も多くなっている。

・将来、阿波市で運行して欲しい交通手段は、阿波高校、阿波西高校、吉野川高校、脇町高校で約69～88%が「路線バス」となっており、川島高校、つるぎ高校は路線バスが多いものの、「自宅～指定間連絡交通」が他高校よりも多くなっている。

・路線バス（定時定路線交通）を運行した場合、「利用したい」と「ときどき利用したい」を合わせて約5割、「利用したい」のみでは2割未満となっている。

将来、阿波市で運行して欲しい交通手段は「路線バス」が多く、
バス停へのアクセス等の移動ニーズに対応する交通手段が必要。